

和仏法律学校講義録

山口, 弘一 / 栗津, 清亮 / 下村, 宏 / 杉本, 貞治郎

(出版者 / Publisher)

和佛法律學校

(巻 / Volume)

2-19

(開始ページ / Start Page)

1

(終了ページ / End Page)

53

(発行年 / Year)

1900-11-10

和佛法律學校

講義錄

第貳部

第拾九號

商法會社(自一八四)法學士杉本貞治郎

商法保險(自一二五至一三六)法學士粟津清亮

財政學(自四〇至四三)法學士下村宏

國際私法(自二六七至二九八)山口弘一

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23

090
1900
2-1-19

會社設立後支店ヲ設ケタル場合本店支店ヲ移轉シタル場合及ヒ登記事項ニ變更ヲ生シタル場合ニ於ケル登記ニ關シテハ合名會社ノ規定ノ準用アリ
會社ハ設立ノ登記ニ因リテ其成立ヲ公認セラルルナリ故ニ株式ノ申込ハ詐欺又ハ強迫ニ因リテ之ヲ爲シタルトキハ民法ノ規定ニ依リテ之ヲ取消スコトヲ得ヘシト雖モ會社カ本店ノ所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲シタル後ハ之ヲ取消スコトヲ許サス(第一四二條)蓋シ本店ノ所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲スニ因リテ會社ノ成立ハ公認セラルルナリ然ルニ其後ニ至リテ株式ノ申込ノ取消サルルトキハ會社ノ資本ノ欠缺ヲ生スルヲ以テ不便甚シ特ニ詐欺又ハ強迫ニ因ル意思表示ハ本來無効ノ意思表示ニ非ス唯條理上之ヲ取消スコトヲ許シタルモノナレハ此ノ如キ場合ニ之カ取消權ヲ制限スルモ亦已ムヲ得サルナリ

第二節 株式

株式ナル語ハ種種ノ意思ニ用ヒラルルト雖モ之ヲ要スルニ株主カ株主トシテ會社ニ對シテ有スル法律關係即チ權利義務ノ總括ナリト看テ可ナリ然レトモ

商法第百四十三條ニ於テ株式ト稱スルハ會社ノ資本ヲ分割セル一部ヲ謂フモノ如シ然ラハ株式ハ或金額ヲ示ス語ナリ之ニ反シテ第百四十條ニ株式ト稱スルハ寧ロ株主カ會社ニ對シテ有スル權利ノ總括ト看ルヲ妥當トス

何故ニ之ヲ權利義務ノ總括ナリト謂フヤ株主ノ會社ニ對シテ有スル權利ハ株式ニ依リテ表示セラレ株式ニ依リテ積算セラレ株式ニ依リテ行使セラレルノミナラス株主カ會社ニ對シテ負フ所ノ義務モ亦株式ニ依リテ定マルナリ唯株式會社ハ株主ノ責任ハ株式ニ該當セル金額ノ出資ニ止マルヲ以テ一旦此出資ノ拂込ヲ完了スルトキハ會社ニ對シテ一モ義務ヲ負フコトナシ故ニ金額拂込後ノ株式ハ權利ノミニシテ義務ナキナリ故ニ株主ノ義務ハ株式ノ要素ニ非ストシテ株式ヲ以テ株主ノ權利ノ總括ト看ルモ亦妨ケナシ

會社ノ資本ハ必ス之ヲ均一ナル金額ニ分割スルコトヲ要ス第一四三條第一四五條此金額ハ五十圓ヲ下ルコトヲ得ス是レ蓋シ株式金額ノ少キニ過クルトキハ細民カ株式ノ取得ヲ以テ投機ノ具ト爲スコトヲ恐レタルナリ而シテ一時ニ株金ノ全額ヲ拂込ム場合ニ於テハ之ヲ二十圓以上ト爲スコトヲ得ヘシ蓋シ株

金ハ通常之ヲ數同ニ分割シテ拂込ムモノナリ然ルニ一時ニ全額ヲ拂込ム場合ニ在リテハ必スシモ之ヲ五十圓以上ト爲ス必要ナシト看タルナルヘシ

唯此ニ疑アルハ立法者ハ最初ノ拂込金額ノ多少ニ因リテ株式金額ノ大小ヲ區別シタルヲ以テ株金額ヲ少額ニスル弊害ハ會社ノ創設ノ際ニ最モ甚シト看タルモノト推測スルコトヲ得ヘシ果シテ然ラハ已ニ全部ノ拂込ヲ完了シタルトキハ五十圓以上ノ株式ヲ分割シテ二十圓ト爲スコトモ亦之ヲ許シテ妨ケナキカ如シ然ルニ第百四十五條第二項首文ニ依レハ株式ノ金額ハ常ニ五十圓ヲ下ルコトヲ得サルヲ以テ拂込満了後ト雖モ之ヲ五十圓以下ニ下スコトヲ得サルナリ

株主ハ一人ニテ數多ノ株式ヲ所有スルコトヲ得ヘシト雖モ株式ヲ分割シテ所有スルコトヲ得ス即チ株式ハ株主ノ出資ノ單位ニシテ株式金額ハ之ヲ分割スルコトヲ得サルナリ但シ數人カ一株式ヲ共有スルコトヲ妨ケス此共有ハ民法ノ所有權共有ト同様ナル性質ヲ有ス即チ各共有者ノ權利ハ株式ノ各部分ニ於テ併存スルモノニシテ株式ヲ分割シテ有スルニ非サルナリ故ニ共有者相互間

ニ在リテ其權利ハ持前ニ判然區分アルヘシト雖モ彼等ハ之ヲ以テ會社ニ對抗
スルコトヲ得ス會社ハ共有者全體ヲ以テ恰モ一株主ト看ルナリ乃チ株金ノ拂
込義務ハ各共有者ニ連帶ニシテ又各共有者ハ株主ノ權利ヲ行フヘキ者一人ヲ
定ムルコトヲ要ス(第一四六條)

株式ヲ表示スル爲メニ株券ヲ發行スルコトヲ得此株券ハ第四百一十一條第一項
ノ規定ニ從ヒ本店ノ所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲シタル後ニ非ナレハ之ヲ以
行スルコトヲ得ス是レ會社ノ設立登記前ニ株券ヲ發行スルハ法律カ禁スル所
ノ設立登記前ノ株式ノ讓渡ヲ容易ナラシムル恐アルカ爲メナリ此規定ニ違反
シテ登記前ニ發行シタル株券ハ無効ナリ
株券ニハ番號ヲ記載シ取締役之ニ署名スヘシ又左ノ事項ハ必ス之ヲ記載スル
コトヲ要ス(第一四八條)

- 一 會社ノ商號
- 二 本店ノ所在地ニ於テ爲シタル設立登記ノ年月日
- 三 資本ノ總額

四 一株ノ金額

此他株金ヲ數次ニ分割シテ拂込マシムル場合ニハ其拂込ノ都度拂込金額ヲ株
券ニ記載セサルヘカラス

株式ハ會社ノ承諾ナクシテ之ヲ他人ニ讓渡スコトヲ得ヘシ但シ會社ノ定款ニ
於テ反對ノ規定ヲ設クルコトヲ妨クス即チ會社ノ定款ヲ以テ株式ノ讓渡ニ條
件ヲ附スルコトヲ得ヘク又全ク之ヲ禁スルコトヲモ得ヘキナリ而シテ定款ニ於
テ株式ノ讓渡ヲ禁セサル場合ト雖モ會社カ本店ノ所在地ニ於テ登記ヲ爲スマ
タハ株式ノ讓渡スコトヲ得ス是レ會社ノ設立ヲ登記セサル以前ニ在リテハ會社
ノ成立未タ完全ナラス此未確定ノ狀況ニ於テ株式所有者ノ轉變スルハ會社ノ
設立ヲ以テ株式授機ノ具ト爲サシムル恐アルヲ以テナリ(第一四九條)

此ニ疑問タルハ本店ノ所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲シタルトキハ株券ヲ發
行セサルモ株式ヲ讓渡スコトヲ得ルヤ否ヤ是ナリ第四百十九條ノ但書ノ規
定ニ依レハ株券ノ發行ナキモ株式ヲ讓渡シテ差支ナキカ如シ然ルニ第五百
十條ニ於テ記名株式ノ讓渡ハ讓受人ノ氏名住所ヲ株主名簿ニ記載シ且其氏

名ヲ株券ニ記載スルニ非サレハ之ヲ以テ會社其他ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス」ト規定シタリ株式ヲ記名無記名ト稱スル以上ハ其已ニ株券ヲ以テ表示セラレタル株式ナルコト明カナリ而シテ若シ株券發行以前ニ於テ株式ヲ讓渡スコトヲ得セシメンカ其讓渡ニ在リテモ讓受人ノ氏名住所ヲ株主名簿ニ記載セシメサルヘカラス第百五十條ニ於テ唯リ株券發行後ノ株式ニ付テノミ規定シタルハ株券ニ依ラサル株式ノ讓渡ヲ認メサル意ナランカ株式會社ニ在リテハ株主ノ責任ハ株式金額ニ限ラレ所謂物の信用ノ社團ナルヲ以テ其資本ノ存在ヲ確實ニセサルヘカラス故ニ法律ハ會社カ自己ノ株式ヲ取得シ又ハ之ヲ質權ノ目的トシテ受クルコトヲ禁セリ又資本減少ノ方法ニ依ラスンハ會社ハ株式ヲ償却スルコトヲ得ス尤モ定款ニ特ニ規定セル場合ニ於テ株主ニ配當スヘキ利益ヲ以テ株式ヲ償却スルハ會社ノ財産ノ現在ニ影響ナキヲ以テ之ヲ許セリ

株金ノ第一回ノ拂込ニ關シテハ第百二十九條及ヒ第百三十條ニ規定アリテ已ニ説明セリ第二回以下ノ拂込ニ在リテハ拂込期日ヨリ二週間前ニ之ヲ株主ニ

催告シ若シ株主カ其期日ニ拂込ヲ爲ササルトキハ會社ハ更ニ一定ノ期間内ニ(此期間ハ二週間ヲ下ルコトヲ得ス)拂込ヲ爲ササルトキハ株主ノ權利ヲ失フヘキ旨ヲ通知スルコトヲ得此通知ヲ爲シ猶ホ株主カ其期間内ニ拂込ヲ爲ササルトキハ株主ハ株主タル權利ヲ失フ(第一百五二條)

斯クセテ株主カ其權利ヲ失ヒタルトキハ會社ハ其株式ノ各讓渡人ニ對シ二週間ヲ下ラサル一定ノ期間ヲ定メ此期間内ニ拂込ヲ爲スヘキコトヲ催告スヘシ讓渡人數多アル場合ニハ此催告ハ同時ニ之ヲ爲シ最モ先ニ滯納金額ヲ拂込ミタル讓渡人ハ此株式ヲ取得ス(第一五三條第一項)第二項此讓渡人ニ對スル催告ハ會社ノ權利タルノミナラス第百五十二條ニ依リ株主カ其權利ヲ失ヒタル場合ニ於テ其滯納金額ヲ拂込ミテ株式ヲ取得スルハ株式讓渡人ノ權利ナルヲ以テ會社ハ必ス此催告ヲ爲ササルヘカラス此手續ヲ爲サスセテ他ノ第三者ニ株式ヲ取得セシメタルトキハ會社ハ損害ノ賠償ヲ爲ササルヘカラス讓渡人カ此催告ニ應シテ拂込ヲ爲ササルトキハ會社ハ之ヲ訴追スルコトヲ得ス唯其株式ヲ競賣セサルヘカラス競賣ニ因リテ得タル代金カ滯納金額ニ滿タ

ナルトキハ從前ノ株主即チ株主ノ權利ヲ失ヒタル者ヲシテ其不足額ヲ辨濟セシムルコトヲ得從前ノ株主カ此請求ヲ受ケテ二週間内ニ之ヲ辨濟セタルトキハ會社ハ株式讓渡人ニ對シテ其辨濟ヲ求ムルコトヲ得即チ從前ノ株主ト株式ノ讓渡人トハ共ニ辨濟ノ義務ヲ負フモノナリ總テ滯納ニ關スル讓渡人ノ義務ハ讓渡後二年ヲ以テ消滅ス

會社ハ以上ノ手續ニ依リテ株金ノ拂込ヲ爲サザルコトヲ得ルノミナラス損害ヲ賠償セシメ若シ又定款ニ於テ滯納者ニ違約金ヲ課スル規定アルトキハ違約金ヲ請求スルコトヲ得ヘシ(第一五三條第三項以下)

株式金額ノ拂込ヲ終ルマデハ株券ハ之ヲ無記名式ト爲スコトヲ許サス是レ拂込滯納ノ場合ニ於ケル株式讓渡人ノ責任アルカ爲メナリ然レトモ金額ノ拂込ヲ終リタルトキハ株式ハ全ク權利ノミト爲ルヲ以テ會社又ハ第三者ハ其株主ノ誰タルヲ問ハサルニ至ルヘシ故ニ之ヲ無記名式ト爲スコトヲ得ヘク無記名式ヲ更ニ記名式ト爲スコトヲ得ヘシ(第一五五條)

第三節 會社ノ機關

會社ノ機關ヲ意思機關ト行爲機關トニ區別スルコトヲ得ルトセハ其區別ハ株式會社ニ於テ最モ判然タルヲ見ルヘシ即チ意思機關ハ株主總會ニシテ行爲機關ハ取締役ナリ然レトモ取締役ハ專ラ行爲機關ナリト謂フコトヲ得ス或場合ニ於テハ會社ノ意思ヲ決シテ之ヲ實行スルコトアリ換言スレハ取締役ハ會社ノ業務ヲ行フニ付キ必スシモ株主總會ノ決議ヲ俟ツコトヲ要セス斯ル場合ニ於テハ取締役ハ行爲機關タルト同時ニ意思機關タリ然レトモ概シテ言ヘハ株主總會ノ意思機關ニシテ取締役ハ行爲機關ナリ此他株式會社ニハ監査役アリ是レ後ニ説明スル如ク主トシテ取締役ノ行動ヲ監査スルモノナリ

以上ノ三者ハ會社ノ常設ノ機關ナリ其他或特定ノ事項ヲ調査スル爲メニ検査役ナル者ヲ置クコトアリ然レトモ是レ必スシモ會社ノ組織ニ必要ナルモノニ非ス

第一款 株主總會

株主總會ハ會社ノ最高機關ナリ然レトモ此機關ハ會社ノ行爲ヲ代表スル機關ニ非スシテ會社ノ意思ヲ決定スル權限ヲ有スルノモノナラズ

第一 議員

株主總會ノ議員ハ總株主ナリ株主外ノ者ハ株主總會ニ出席スルコトヲ得ス又苟モ株主タル以上ハ株主總會ノ議員タラザサルコトヲ得ス尤モ各株主ノ議決權ノ分量ハ必スシモ一定セズ即チ各株主ノ有スル株式ノ分量ニ依リテ差等アリ原則トシテハ一ノ株式ニ付キ一箇ノ議決權ヲ有スルモノトス但シ一人ニテ十一株以上ヲ所有スル者ニ對シテハ定款ヲ以テ之ヲ制限スルコトヲ得ヘシ

第六二條

此ノ如ク議決權ハ株式ト相伴フカ故ニ議員ノ頭數ト議決權ハ一致セサルヲ常トス又前ノ如ク十一株以上ハ議決權ヲ制限スルコトヲ得ルカ故ニ株主ノ數ト議決權トモ亦相一致セサルヲ通常トス

凡ソ株主タル以上ハ之カ議決權ヲ剝奪スルコトヲ得サルコト前ニ述ヘタル所ノ如シ然レトモ或特別ナル理由ニ因リ特定ノ株主ノ議決權ノ行使ヲ停止スルコトアリ是レ第六十一條第四項ノ規定スル所ニシテ其株主カ總會ノ決議ニ付キ特別ノ利害關係ヲ有スル場合ナリ此ノ如キ法律ノ規定ニ依ルニ非スシテ定款ヲ以テ或株主ニ議決權ノ行使ヲ停止スルコトヲ得ルヤ否ヤハ議論アル所ナリト雖モ必スシモ不法ナリト謂フコトヲ得サルカ如シ例ヘハ會社ノ諸規則ニ反スル者ハ議決權ヲ行フコトヲ得スト定ムル場合ノ如シ

第二 總會ノ招集

總會ハ隨意ニ集會シテ會議ヲ開クコトヲ得ス必ス一定ノ招集手續ヲ經サルヘカラス此招集權ヲ有スル者ハ取締役第一五七條監查役第一八二條及ヒ會社資本ノ十分ノ一以上ニ當ル株主第一六〇條第二項トス株主カ若シ一人ニテ資本十分ノ一以上ヲ有スルトキハ一人ノ意思ヲ以テ株主總會ヲ招集スルコトヲ得ヘシ株式總會ヲ招集セントスルニハ各株主ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス通知ヲ發スルハ會日ヨリ二週間以前ナラサルヘカラス法文ニハ發スルコトヲ要

ス「アルカ故ニ其通知カ必スシモ株主ニ到達スルコトヲ要セス(第一五六條第一項)尙ホ此通知ニハ總會ノ目的總會ニ於テ決議スヘキ事項ヲ記載セサルヘカラス同條第二項但シ無記名式株券ヲ發行シタル場合ニ於テハ通知ヲ發スルコト能ハサルカ故ニ會日ヨリ三週間前ニ總會ヲ開クヘキ旨總會ノ目的及ヒ總會ニ於テ決議スヘキ事項ヲ公告スヘキモノトス同條第三項無記名式株券ヲ有スル者ハ會日ヨリ一週間前ニ其株券ヲ會社ニ供託スルコトヲ要ス(第一六一條第二項)

第三 總會ノ權限

總會ノ權限ハ極メテ大ナリ總會ハ前ニ述ヘタル如ク會社ノ業務上ニ關シテハ最高機關ナリ總會ハ定款ヲ變更スルコトヲ得ヘク役員即チ會社ノ機關ヲ選任シ又ハ解任スルコトヲ得ルノミナラス會社ノ合併又ハ解散ヲモ議決スル權能ヲ有ス但シ法令並ニ定款ノ規定ニ從ハサルヘカラス總會ハ定款ヲ變更スルノ力ヲ有スルモ定款ニ違反スルコトヲ得ス故ニ定款ノ規定ニ異ナリタル議決ヲ爲サント欲セハ先ツ定款ヲ變更セサルヘカラス(第一六〇條第一項)

總會ト取締役トノ關係ハ前ニ述ヘタル如ク一ハ議決機關ニシテ一ハ執行機關(行爲機關)ナリ總會ハ外部ニ對シテ會社ヲ代表スルコトヲ得サルモ會社ノ業務ニ付テハ最高權ヲ有ス取締役ハ總會ノ決議ヲ執行スルカ爲メニ外部ニ對シテ會社ヲ代表スルノ權限ヲ有スレトモ會社ノ業務執行ニ付テハ全ク會社ノ意思即チ總會ノ決議ニ從ハサルヘカラス此事ニ付テハ舊商法第百八十六條ハ之ヲ明言セタリシカ新商法ニ於テハ此規定ヲ刪除セリ是レ取締役ハ總會ノ決議ヲ導奉スルコトヲ要セサルカ故ニ非スレテ取締役ハ總會ノ決議ニ從フヘキハ當然ノ事理ナルヲ以テナリ唯疑アルハ取締役ハ總會ノ決議カ定款ニ違反スル場合ト雖モ仍ホ其決議ヲ執行セサルヘカラスアルヤ否ヤ是ナリ予ハ執行スヘシト主張スル者ナリ何トナレハ法令又ハ定款ノ解釋ニ付テハ取締役ハ會社最高ノ機關タル總會ニ讓ラサルヘカラサル事理ナレハナリ總會カ法令又ハ定額ニ違反セストシテ爲シタル決議ヲ取締役カ法令又ハ定款ニ違反セリトシテ之カ執行ヲ拒ム權ヲ有ストセハ法令、定款ノ解釋權ハ寧ロ下級ノ機關ニ在ルコトト爲リテ甚タ條理ニ反レハナリ或ハ曰ハシ取締役カ法令、定款ニ反スル行爲ヲ爲セハ

株主總會ノ決議ニ依リタル場合ト雖モ仍ホ第三者ニ對シテ損害ノ責任ヲ負ハサルヘカラス(第一七七條第一項)然ルニ取締役ハ法令定款ニ違反シタル決議ト雖モ之ヲ執行セサルヘカラストセハ第百七十七條ノ規定ハ條理ニ戾ルコト甚シカラスヤト是レ一理ナキニ非ス然レトモ第百七十七條第一項ノ規定ハ取締役ヲシテ可及的總會ノ決議ヲ矯正セシメント欲スル趣旨ニ出テタルモノニシテ取締役ニ決議執行ヲ拒ム權限ヲ與ヘタルモノニ非ス故ニ同條第二項ニハ取締役カ株主總會ニ於テ異議ヲ述ヘ且ツ監查役ニ其旨ヲ通知シタル取締役ハ縱令其決議ヲ執行スルモ賠償責任ナキコトヲ規定セリ是レ亦取締役カ總會ノ決議ニ服從セサルヘカラスナルノ精神ナルコトヲ知ルコトヲ得ヘシ茲ニ總會ノ權限トシテ述フヘキハ總會ハ其權限トシテ如何ナル事項ヲ取扱フコトヲ得ルヤニ在リ此事項ヲ假ニ總會事項ト稱スヘシ總會事項ヲ區別スルトキハ其方法ニアリ(第一形式ニ依ル區別第二)實質ニ依ル區別是ナリ

第一形式ニ依ル區別 形式ニ依ル區別トハ總會カ其事項ヲ取扱フ形式ニ依

リテ區別スルヲ謂フ換言スレハ總會カ其權限ヲ行使スル所ノ方法ニ因ル區別ナリ總會カ其權限ニ屬スル事項ヲ取扱フ方法ヲ區別スルトキハ大體左ノ四ト爲ル

一 議決 議決ハ最モ普通ノ方法ニシテ畢竟總會カ或事項ニ付キ判斷ヲ下スコトヲ謂フ

二 選舉 是レ會社ノ役員等ヲ選任スル方法ナリ選舉モ亦意思ノ判斷ニシテ議決ト異ナルコトナキカ如クト雖モ通例全ク特殊ノ手續ニ依ルカ故ニ之ヲ議決ト區別スルナリ

三 報告ヲ受クルコト 之ハ單ニ報告ヲ受クルノミニシテ即チ總會ハ受領的ノ位置ニ立ツモノナリ例ヘハ商法第百七十四條三(會社カ其資本ノ半額ヲ失ヒタルトキハ取締役ハ遲滞ナク株主總會ヲ招集シテ之ヲ報告スルコトヲ要ス)トアルカ如キ即チ是ナリ勿論總會ハ其報告ニ基キ更ニ特段ナル行爲ヲ爲スコトアルヘキモ這ハ自ラ別問題ナリ

四 調査スルコト 是レ亦總會ノ一種ノ動作ナリ例ヘハ商法第百五十八條第

一項ニ定時總會ハ取締役カ提出シタル書類及ヒ監査役ノ報告書ヲ調査シ云云トアルカ如キ是ナリ調査權行使ノ方法ハ同條第二項ニ規定セラル即チ前項ニ掲ケタル書類ノ當否ヲ調査セシムル爲メ總會ハ特ニ檢査役ヲ選任スルコトヲ得ト

第二 實質ニ依ル區別 此區別ハ總會ノ取扱フ所ノ事項ノ性質ニ因ルモノニシテ區別ノ標準種種アルヘシト雖モ先ツ之ヲ(一)自由總會事項ト(二)法定總會事項トニ分ツヘシ蓋シ憲法學者カ立法ノ範圍ヲ分テ自由立法事項ト法定立法事項トニ區別スルカ如ク予モ亦説明ノ便宜上此區別ヲ用フルノミ

一 自由總會事項 自由總會事項トハ總會カ自ラ之ヲ行フト又ハ之ヲ他ノ機關ニ委任シテ行ハシムルトハ一ニ總會ノ自由ニ任スル所ノ事項ノ謂ナリ勿論總會カ其權限ヲ行使スルニハ定款ノ規定ニ準據スヘキモノナルコトハ前已ニ述ヘタル如シ而シテ定款又ハ法律ニ於テ取締役等ノ如キ他ノ機關ノ權限トシテ定メカキ事項ハ總會ノ權限ニ屬スルカ故ニ隨テ總會ハ自ラ之ヲ行フト又ハ他ノ機關ヲシテ行ハシムルトハ專ラ總會ノ自由ニ決シ得ヘキ範圍ナリト

謂フヘシ

二 法定總會事項 法定總會事項トハ總會カ必ス自ラ行ハサルヘカラサル事項ノ謂ナリ法定總會事項ヲ分テ左ノ數種ト爲ス

(一) 定款ノ變更 第二百八條ニ定款ハ株主總會ノ決議ニ依リテノミ之ヲ變更スルコトヲ得ト規定セラレタルヲ以テ定款ノ變更ハ總會ノ專屬事項タルコト明カナリ

(二) 任意ノ解散 第二百二十一條第二號ノ規定スル所ニシテ此解散ノ決議ヲ爲スト否トハ固ヨリ總會ノ自由ナルモ解散スルニハ必ス總會ノ決議ヲ要スルモノニシテ予ハ此點ニ於テ法定總會事項ナリト言フナリ

(三) 社債ノ募集 第九十九條ニ依レハ社債ハ第二百九條ニ定メタル決議ニ依ルニ非サレハ之ヲ募集スルコトヲ得ストアリテ是レ亦法定總會事項ナリ而シテ同條ハ第二百九條ニ定メタル決議ニ依ル云云ト規定シ其決議ノ方法ヲモ示セリ

(四) 役員ノ選舉 取締役又ハ監査役ノ選任ヲ爲スニハ總會ニ於テセサルヘカラ

ス第百六十四條ニ「取締役ハ株主總會ニ於テ株主中ヨリ之ヲ選任ス」ト此規定ハ第百八十九條ニ於テ監査役ニ準用セラル

(五) 定時總會事項 定時總會ニ於テハ取締役ヨリ提出シタル財産目録貸借對照表營業報告書及ヒ損益計算書ノ承認ヲ爲シ且ツ準備金及ヒ利益又ハ利息ノ配當ニ關スル議案ヲ議決ス(第一九〇條第一九二條第二項)

(六) 總會ハ取締役カ自己又ハ第三者ノ爲メニ會社ノ營業ノ部類ニ屬スル商行爲ヲ爲シ又ハ同種ノ營業ヲ目的トスル他ノ會社ノ無限責任社員ト爲ルコトノ認許ヲ爲スモノトス(第一七五條第一項)

以上ノ事項ハ總會ハ必ス其權限トシテ自ラ行使セサルヘカラサルノ義務アルモノトス

第四 總會ノ種類

總會ノ種類モ亦其觀察ノ如何ニ依リテ種種ニ區別スルコトヲ得ヘキモ予ハ假ニ二様ノ區別ヲ爲スヘシ(第一開會ノ時期ニ因ル區別第二開會ノ自由アルト否トニ因ル區別是ナリ)

第一 開會ノ時期ニ因ル區別 此區別ニ依ルトキハ總會ヲ(一)定時總會(二)臨時總會ニ分ツヘシ

一 定時總會

定時總會ハ毎年必ス一回一定ノ時期ニ於テ開クコトヲ要シ若シ又年二回以上利益ノ配當ヲ爲ス會社ニ在リテハ其配當期ノ度毎ニ之ヲ開クコトヲ要ス而シテ此總會ヲ招集スルハ取締役ノ任務ナリトス(第一五七條)此ノ如ク此總會ハ法律上開會ノ時期ヲ限定スルモノナルニ由リ之ヲ定時總會トハ謂フナリ

二 臨時總會

臨時總會トハ讀ミテ字ノ如ク臨時必要ノ生シタル都度開會スル所ノ總會ナリ此總會ヲ招集シ得ル者ハ皆ヲ述ヘタル如ク取締役監査役若シハ株主トス(第一五九條第一六〇條第一八二條)

定時總會ト臨時總會トノ區別ニ關シ尙ホ述フヘキモノアリ予ハ前ニ此區別ハ開會ノ時期ニ在リト云ヘリ即チ其時期ト云フハ第百五十七條第百五十九條ノ規定ニ依リ定時總會ハ毎年一回一定ノ時期ニ於テ之ヲ招集シ臨時總會ハ必要

アル毎ニ取締役之ヲ招集スルモノナルカ故ニ時期ヲ以テ此區別ト爲スハ兎ニ角普通ノ觀念ナリ然ルニ定時總會ト臨時總會トハ此時期ノミニ由リテ區別スルコトヲ得ルヤ否ヤハ疑アリ或ハ定時總會ト臨時總會トノ區別ハ全ク議決事項ニ因ル區別ナリト主張スル者アリ即チ第百九十條第一號乃至第五號ニ揭タル事項ハ定時總會ノ權限ニ屬シ定時總會ハ此事項ノ外ニ議スルコトヲ得ス結局第百九十條ニ揭ケタル事項ハ定時總會ノ專屬事項ニシテ臨時總會ハ之ヲ侵スコト能ハサルナリ隨テ定時總會ト臨時總會トノ區別ハ本來事項其モノニ依リ之ヲ定ムヘシト云フ說ナリ此論ハ必スシモ時期ニ依リ區別スル說ト兩立スヘカラサルモノニ非ス即チ定時總會ハ毎年一定ノ時期ニ於テ一定ノ事項ノ爲メニ開ク所ノ總會ニシテ臨時總會ハ必要アル毎ニ第百九十條ノ事項以外ノ事項ヲ議スル爲メ開クモノト謂フヲ得ルナリ

第二 開會ノ自由アルト否トニ因ル區別 總會ニハ法律上必ス開カサルヘカラサルモノアリ又開クト否トハ會社ノ自由ナルモノアリ之ヲ標準トシテ考フレハ其第一ニ屬スルモノハ(一)定時總會第一五七條(二)會社ノ資本カ半額未滿ニ

設ケタル場合第百七十四條第一項ニ曰ク「會社カ其資本ノ半額ヲ失ヒタルトキ」取締役ハ遲滞ナク株主總會ヲ招集シテ之ヲ報告スルコトヲ要スト乃チ此場合ニハ取締役ハ其任務トシテ總會ヲ招集スヘキナリ茲ニ注意ヲ要スルハ法文ニ所謂會社カ其資本ノ半額ヲ失ヒタルノ意味ハ文字上ノ解釋トシテハ會社ノ資本即チ無形ノ財産ヲ指稱シタル如キ觀アルモ前ニ屢述ヘタル如ク會社ノ資本ハ定款ヲ以テ變更セサル限リハ決シテ増減スルコトナキニ由リ本條ニ所謂資本トハ結局會社ノ資産即チ現在ノ財産カ會社ノ資本ノ半額未滿ニ減シタル場合ト心得ラルヘシ(三)會社ノ役員ニ缺員ヲ生シタル場合蓋シ會社ハ無形人ニシテ機關ナケレハ活動スルコト能ハサルヲ以テ機關タル役員ノ欠缺シタルトキハ補缺選舉ノ要ヲ生ス而シテ役員ノ選舉ハ總會ノ法定事項ニ屬シ隨テ此場合ニハ必ス總會ヲ招集スヘキコトト爲ルナリ此三種ノ總會ヲ除ケハ會社ハ總會ヲ開クト否トノ自由ヲ有スルモノナリ

第五 議事ノ方法

總會ノ議決方法ニ關シ法律又ハ定款ニ規定セラルルモノハ出席數ト議決權數

トノ二ツナリ出席數議決權數ハ普通ニ之ヲ定足數ト稱ス

第一 法律ノ規定ニ基ク出席數ト議決數トヲ述ヘン第二百九條ニ「定款ノ變更ハ總株主ノ半數以上ニシテ資本ノ半額以上ニ當タル株主出席シ其議決權ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス」トアリ又第二百二十二條ニ「總會ノ決議ニ基ク解散及ヒ合併ノ決議ヲ爲スニハ第二百九條ノ方法ニ從フヘキコトヲ規定セリ」新商法カ議事方法トシテ出席數及ヒ議決數ヲ定メタルハ結局定款ノ變更會社解散及ヒ合併ノ決議ノミナリ此規定ニ依レハ總株主ノ半數以上ニシテ而モ其總株主ノ半數以上ノ株主カ有スル株式ハ會社ノ資本ノ半額以上ニ當ルコトヲ要スルナリ即チ之ニ該當スル株主ノ出席ナケレハ定款變更等ヲ目的トスル總會ヲ開クコトヲ得ス又此出席セタル株主ノ議決權ノ過半數ノ同意アルニ非ザレハ議決スルコトヲ得サルナリ

此ノ如ク法律カ嚴重ノ規定ヲ設ケタルノ結果ハ若シ定足數ニ達セサル場合ハ全ク議決スルコトヲ得サルノミナラス之カ爲メ更ニ總會ヲ招集スルモ又此定足數ニ達セサルトキハ到底議決ヲ爲スコト能ハサルコト爲リ其不便甚シ故

ニ法律ハ其救済策トシテ假決議ノ方法ヲ規定セリ假決議トハ此總會ヲ招集スルモ法定ノ人員出席セサルトキハ現在出席セタル株主ノ議決權ノ過半數ヲ以テ假ニ決議ヲ爲スヲ謂フ此假決議ヲ爲シタル場合ニハ各株主ニ對シ其假決議ノ趣旨ヲ通知シ尙ホ會社カ無記名式ノ株券ヲ發行シタルトキハ其趣旨ヲ公告セ更ニ一箇月以上ノ期間内ニ第二回ノ株主總會ヲ招集スヘキコトヲ命セリ(第二〇九條第二項)第二回ノ株主總會ニ付キ法律ハ出席數ノ規定ヲ設ケサルカ故ニ現在出席セタル株主ノ過半數ヲ以テ假決議ノ認否ヲ決議スルコトヲ得同條第三項)

假決議ノ方法ハ極メテ便利ナル方法ナリト雖モ實際極メテ少數ナル人ノ意思ヲ以テ會社ノ意思ヲ決スルニ至ルヘシ故ニ極メテ重大ナル事項ニ付キテ此方法ヲ用ヒシムルハ頗ル要カナラサルモノアリ是ヲ以テ法律ハ會社ノ目的タル事業ヲ變更スル場合ニハ假決議ノ方法ヲ適用セサルコトヲ規定セリ(同條末項)注意 第二百九條第二項ニ「更ニ一個月ヲ下ラサル期間内トアルハ第二回ノ株主總會ヲ招集スル期間ノ最長限ナリヤ將タ最短限ナリヤ之ニ付テハ解釋

上議論アル所ナリ聞タカ如クンハ新判決例ハ最短限ナリト解釋セリト
 舊商法ハ總テノ事項ニ付キ法定ノ定足數ヲ規定シ定款ノ變更及ヒ任意解散ノ
 議決ノ外ハ總株主ノ四分ノ一ヲ以テ定足數ト爲シ隨テ假決議ノ方法ヲ一般ニ
 規定セリ新商法ハ之ニ反シ普通ノ總會ニ關シテハ別ニ之ヲ規定ヲ設ケタルカ
 故ニ各株式會社ハ多クハ定款ヲ以テ任意ニ之ヲ定ムルナリ
 茲ニ諸君ノ參考ニ供セシカ爲メ獨逸商法ニ規定セル議決方法ノ重要ナルモノ
 ヲ示サン

一議決ニ付キ總出席員ノ同意ヲ要スルモノ 是ハ會社ノ商號住所目的ヲ變更
 スル場合ニ關スルモノ

二總株主ノ四分ノ一以上ノ株主同意シ而シテ其株主ノ有スル株式ハ會社資本
 ノ四分ノ一以上ニ當ラサルヘカラサルモノ 是ハ創立總會ノ議決方法ナリ
 三出席員ノ數ノミヲ限リ其他ハ之ヲ問ハサルモノ即チ出席員ハ會社資本ノ四
 分ノ三以上ニ當ル株主ノ出席ヲ要スルモノ 是ハ會社ノ資本ノ十分ノ一以
 上ノ價アル不動産ヲ買入ルル場合ニ關スルモノナリ

以上五項ニ説明セタルハ即チ保險契約者時ニ被保險者又ハ保險金受取人ノ義
 務ニ付テ之ニ對スル保險者ノ權利アルモノト知ルヘシ而シテ損害發生シテ保
 險者力之ヲ填補シタル後ハ保險者ハ被保險者力從前其目的ニ付テ有シタル權
 利ヲ悉皆取得スル例ハ保險ニ付セラレタル船舶沈没シ被保險者力保險金ノ支
 拂ヲ受ケタルトキハ彼力該船舶ニ付テ有シタリシ權利ハ悉皆保險者ニ移リ保
 險者ハ船舶ヲ引揚ケ之ヲ賣却セテ其代價ヲ取得スルコトヲ得ルナリ但シ船價ノ
 半カ保險金額ナリシ場合ニハ賣却額ノ半ハ被保險者ニ屬シ半ハ保險者ニ歸ス
 ルカ如ク取得スル權利ハ彼力賠償ヲ爲シタル限度ト比例ニ由リテ定マルモノ
 トス又該船舶沈没ノ原因カ他ノ船舶ノ衝突ヨリ起レル場合ノ如キハ保險者ハ
 勿論被保險者ノ權利ヲ讓受ケテ損害賠償ノ請求ヲ爲スコトヲ得ルナリ(第四一
 五條第四一六條)

此事タル總テノ保險ニ適用セラルヘキ道理ナレトモ火災ノ如キハ大體財産ヲ
 燒キ盡シテ餘ス所ナク又被保險物中燒ケ殘リタル部分ニ付テハ保險金ヲ拂ハ
 サルカ故ニ保險者力取得スヘキ權利ヲ留メサルヲ普通トスレトモ海上保險ニ

於テ屢發生スル所ノ事實ナルカ故ニ之ニ關シテ特ニ委付ノ規定ヲ設ケタリ次
ニ少シク之ヲ説明セント欲ス
海上保險ニ於テ被保險者カ利益ノ殆ト全部ヲ失ヒタリト看做サルモ而モ尙
ホ詳細綿密ナル調査計算ヲ施シ又手段ヲ盡サハ利益ニ多少ノ殘留分ヲ發見ス
ルコトナキニ非ス然レトモ被保險者ヲシテ成ルヘク速ニ損害ノ回復ヲ得セシ
ムルコトハ保險契約ノ本旨ニシテ而モ被保險者ニ此ノ如キ面倒ナル調査手段
ヲ盡スコトヲ強制スルコトハ此本旨ヲ沒却スルモノナルカ故ニ多少ノ殘留分
カ想像セラルル場合若クハ未タ必スシモ損害カ發生シタリト斷定スヘカラサ
ル場合ト雖モ被保險者ヲシテ速ニ賠償ヲ得セシムルカ爲メニ保險ノ目的ニ付
テノ彼カ權利ヲ保險者ニ讓渡シテ保險金額ノ全部ヲ請求セシムルコトヲ許セ
リ之ヲ委付ト稱シ我商法第六百七十一條以下ニ規定セリ而シテ被保險者カ之
ヲ行ヒ得ル場合左ノ如シ

- 一 船舶カ沈没シタルトキ
- 二 船舶ノ行方カ知レサルトキ

三 船舶カ修繕スルコト能ハサルニ至リタルトキ

四 船舶又ハ積荷カ捕獲セラレタルトキ

五 船舶又ハ積荷カ官ノ處分ニ依リテ押收セラレ六箇月解放セラレサルトキ
保險者ノ義務タル保險金支拂ハ二箇年ノ時効ニ因リテ消滅スルコト我商法ノ
規定スル所ナレハ被保險者又ハ保險金受取人ハ損害ノ發生ヲ知リタル時ヨリ
二箇年間ニ保險金ノ請求ヲ爲ササルトキハ其權利ヲ失フモノナリ二箇年ノ時
效ハ随分短期ナリ而モ之ヲ保險契約ニ規定シタルハ例ノ保險金ヲ速ニ支拂フ
コトカ保險契約ノ主眼ニシテ二箇年以上モ保險金ヲ請求セサル者ハ損害ヲ苦
痛トセス又隨テ之カ急速ナル填補ヲ希望セス最早保險金ヲ得ントスル意思ナ
キ者ト推測シタルニ由ルナリ且ツ又損害ヲ證明スヘキ諸種ノ證據ハ貸金證書
ノ如キ單純明瞭且ツ保存シ易キモノニ非ス複雜ニシテ湮滅シ易ク長キ期間ノ
後ナラストモ當事者間ニ爭論ヲ惹起サシメテ加フルニ裁判官ヲシテ之カ判定
ニ苦マシムル恐アルヲ以テ二箇年ノ短時効ヲ特定シタルナリ

第三者カ被保險者ニ損害ヲ被ラシメテ而シテ保險者カ之ヲ賠償シタル場合ニ

ハ前述ト同一ノ理由ヲ以テ其賠償シタル限度ニ於テ保險者カ損害賠償ヲ第三者ニ請求スルコトヲ得ル所ノ第四百十六條ノ規定ハ商法修正案ニ於テハ之ヲ生命保險ニ準用スルコトトセシカ現行商法ハ之ヲ省キタリ立法者ノ意ハ生命保險ニ在リテハ保險者カ第三者ニ對シテ損害賠償ヲ請求スルヲ得ストスルカ爲メナルカ將タ又之ヲ準用セストモ民法ノ規定ニ據リ當然賠償ヲ請求スルコトヲ得トシタルカ爲メナルカ分明ナラスト雖モ生命保險事業計算ノ基礎ヨリスレハ保險者ハ通常豫メ此等ノ損害ニ對スル保險料ヲ受領シ居レルカ故ニ其賠償ヲ請求スルハ不當ナリ而モ民法ノ原則タル經濟ノ衝突ヲ見テ吾人ノ研究ヲ要スヘキ問題ト作爲セリ

第七節 保險契約ノ移轉

保險契約ハ嘗テ述ヘタル如ク保險ニ付セラレタル物ニ附隨スルモノニ非スシテ其物ト之ヲ所有若クハ占有又ハ或關係ヲ有スル人トノ利益關係ニ付テ成立スルモノナルカ故ニ該物件カ被保險者ノ手ヲ離レテ兩者ノ關係止ミタルトキ

ハ保險契約ノ當然消滅スルヲ以テ普通ノ法理ナリトス然レトモ是レ實際上甚シキ不便不利ヲ招クモノナルカ故ニ我商法ニ於テハ被保險者カ保險ノ目的ヲ讓渡シタルトキハ同時ニ保險契約ニ因リテ生シタル權利ヲ讓渡シタルモノト推定スル旨ヲ規定セリ(第四〇四條參看)是レ被保險者ニ取リテ甚タ便宜ナル規定ニシテ保險ノ發達シタル諸國ニ於テ採用セラルル所ノ主義ナリトス然レトモ此讓渡力著シク危險ヲ變更増加セシメタル場合ニハ保險契約ハ當然其效力ヲ失フコトヲ規定シテ以テ保險者ノ利益ヲモ保護セリ

以上ハ損害保險ニ付テ言フ所ナルカ生命保險ニ於テハ如何ト云フニ生命保險ニ於テ所謂保險契約ニ因リテ生シタル權利トハ保險金ヲ受取ル權利即チ保險金受取人タルコトニシテ此權利ノ讓渡即チ保險金受取人ノ變更ハ我商法モ之ヲ認メ第四百二十八條第二項ニ「保險契約ニ因リテ生シタル權利ハ被保險者ノ親族ニ限リ之ヲ讓受タルコトヲ得ト規定セリ然レトモ是レ蛇足ノ規定タルヲ免レス何トナレハ保險金額ヲ受取ルヘキ者ハ常ニ被保險者其相續人又ハ親族ナルコトヲ要スルコト第四百二十八條ノ第一項ニ明カナリ讓渡ニ付テモ親族

以外ニ讓渡スコトノ不可能ナルコト敢テ此第二項ヲ要セサルナリ特ニ此第二項ノ條文ニ據レハ元來保險金受取人カ被保險者ノ親族ト定メアリシ場合ニ之ヲ被保險者自身ニ讓受クントスルモ爲スコトヲ得サルノ不理ニ陥ル恐アリ旁則除スヘキ條文ナリ

生命保險ニ於テ他ノ意味ニ於ケル契約ノ讓渡ナルモノアリ保險契約ヲ一ノ目的ヨリ全然離レシメテ他ノ同種ノ目的ノ上ニ置ク方法ニシテ例ヘハ二十歳ノ被保險者カ二十五歳マテ契約ヲ繼續シ來リタルニ保險料支拂ノ力ヲ失ヒ又ハ他ノ原因ニ由リテ契約ヲ罷メント欲スルニ當リ解除ノ申込ヲ爲サズシテ之ヲ他ノ同年齡ノ人ニ讓渡シ保險者カ其交代生命ノ健康ニ付テ異議ナキトキハ之ヲ認メテ契約ヲ繼續セシムル方法ナリ我商法ハ此ノ如キ場合ヲ想像セサルカ故ニ別ニ規定ヲ設ケスト雖モ保險社會ニ於テハ實際行ハレテ且ツ不理ノ點ヲ發見セサル所ナリトス

保險契約ノ移轉ハ保險證券ノ裏書ヲ以テ證スルヲ普通トス即チ保險契約者被保險者カ何某ニ之ヲ讓渡ス云云ノ文言ヲ認メ署名捺印シ保險者モ亦署名シテ

之ヲ證ス又保險附ノ物品ヲ仲買人ノ手ヲ經テ買却スル場合ニ賣手カ買手ノ名ヲ知ラサルコトアリ此ノ如キ場合ニハ證券讓受人ノ姓名ヲ記入スルヲ得ス空欄ヲ設ケ置クカ或ハ所持人ナル文字ヲ挿入スルコトアリ此等ハ法律上別ニ一定ノ方式ナク習慣ニ依リテ行ハルルモノト知ルヘシ

第八節 保險契約ノ消滅

保險契約ハ損害發生シテ保險者カ填補ヲ實行シタルトキニ消滅スルハ言フ埃タス又當事者ノ合意ヲ以テ之ヲ解除シテ消滅セシムルヲ得ルコト勿論ナリト雖モ尙ホ左ノ多クノ場合ニ於テ消滅スルモノナリ

甲 當然消滅

(一) 被保險利益ノ消滅

例ヘハ火災保險ニ付セラレタル家屋カ突然洪水ノ爲メニ流失シタル場合ノ如シ

我商法ニ於テハ生命保險ニ於テ被保險利益ヲ認メサルニ似タレトモ第四百二

十八條第三項ニ於テ「保險金額ヲ受取ルヘキ者カ死亡シタルトキ又ハ被保險者ト保險金額ヲ受取ルヘキ者トノ親族關係カ止ミタルトキハ保險契約者ハ更ニ保險金額ヲ受取ルヘキ者ヲ定メ又ハ被保險者ノ爲メニ積立タル金額ノ拂戻ヲ請求スルコトヲ得」規定シ後段被保險利益ノ消滅ト共ニ契約モ消滅スルカノ如キ意ヲ表ハセリ

(二) 危險ノ消滅

例ヘハ滿船ニテ横濱ヨリ廣島ニ到ラントスル被保險貨物カ神戶ニ於テ墮揚セラレタル場合ノ如シ海上危險カ突如トシテ消滅シ隨テ契約ハ自然ニ消滅ニ歸セルナリ

(三) 保險期間ノ經過

例ヘハ定期生命保險ヲ契約シタル被保險人カ無事該年限ヲ經過セタル場合ノ如シ而シテ之ハ契約カ中途ニ消滅スル場合ニ非スシテ契約カ完全ニ履行セラレ保險者カ擔保ノ責任ヲ盡シテ契約消滅シタルナリ予ハ之ヲ保險契約ノ履行ナリト思ヘリ然ルニ農商務大臣ノ保險ニ關スル細則ニハ履行ヲ保險支拂ニ限ル

カ如ク解釋セリ奇怪ナリト謂フヘシ

(四) 保險料ノ不拂

保險契約カ雙務契約タル當然ノ結果ニシテ保險契約者カ保險料ヲ支拂ハサルハ最早契約ノ利益ヲ拋棄シタルモノト推定スルコトヲ得故ニ期日ニ於ケル不拂ノ瞬間ニ契約消滅スルモノナリ

(五) 危險カ保險契約者又ハ被保險者ノ責ニ歸スヘキ事由ニ因リテ著シク變更又ハ増加シタルトキ(第四一〇條)

(六) 目的ノ讓渡カ著シク危險ヲ變更又ハ増加セシメタルトキ(第四〇四條)以上ハ保險契約ノ要素ノ消滅又ハ欠缺ヲ來セル場合ニシテ契約消滅シテ無効ト爲ルコト敢テ喋喋ヲ要セザルナリ

乙 解除

(一) 危險カ保險契約者又ハ被保險者ノ責ニ歸スヘカラサル事由ニ因リテ著シク變更又ハ増加シタルトキ(第四一一條)

例ヘハ被保險家屋ノ近傍ヘ湯屋鍛冶屋ノ如キ者カ新設セラレタル場合ニ保險

(二) 當事者ノ一方カ破産宣告ヲ受ケタルキ(第四〇六條)
保險者カ破産スレハ保險金支拂ノ義務ヲ果セコト能ハサルヘシ保險契約者カ破産スレハ保險料ヲ支拂フコト能ハサルヘシ此ノ如キ者ト契約スルハ危險ナルカ故ニ相互ニ契約解除ヲ請求スルコトヲ得ルナリ

丙 不成立

不成立ハ初ヨリ契約ノ成立セサルコトニシテ嚴格ニ言ヘハ契約ノ消滅ト謂フコトヲ得サルモノナレトモ已ニ成立セリト思ヘル契約ノ後ニ不成立ナルコトヲ發見セラルルトキ恰モ契約消滅ノ觀アルヲ以テ序ニ茲ニ列記スルコトトセリ

(一) 契約當時ニ當事者ノ一方又ハ被保險者カ事故ノ生セサルヘキコト又ハ已ニ生シタルコトヲ知レルトキ(第三九七條)

ニ生シタルコトヲ知レルトキ(第三九七條)

保險ハ損害ノ發生ヲ恐ルルカ爲メニ起ル所ノ契約ナリ初ヨリ損害ノ發生セザルコトヲ知ルニ於テハ豈ニ此契約ヲ結フノ愚者アラシヤ又保險ハ將來發生スヘキ損害ヲ保證スルモノナラカ故ニ已ニ事故ノ發生セル場合ニハ契約ノ成立

セサルゴト無論ナリ

(二) 契約ノ當時保險契約者生命保險ニ在リテハ被保險者モカ惡意若クハ重大ナル過失ニ因リ重要ナル事實ヲ告ケス又ハ重要ナル事項ニ付キ不實ノ事ヲ告グタルトキ(第三九八條)

ゲタルトキ(第三九八條)

例へハ火災保險契約者カ被保險物ノ性質構造位置等ニ付テ隱蔽虛陳又ハ錯誤ノ陳述ヲ爲シ生命保險ノ被保險者カ自己ノ自體ニ付テ虚偽ヲ陳ヘタル場合ノ如シ然レトモ重大ナル過失重要ナル事項等ノ文字ハ事實問題ニ入りテ屢爭論ノ基ヲ爲スカ故ニ予ハ保險者ノ要求シタル事項ニ付テ云云ト改正セハ如何ト念ヲ抱ケリ

ノ念ヲ抱ケリ

但し餘リ明白ナル虛陳不陳等又ハ保險者カ十分力ヲ盡スヘキニ之ヲ怠リテ虛陳不陳ヲ發見セザリシ場合ノ如キハ失保險者ニ在リテ契約無効ヲ主張スルヲ得タルナリ

得サルナリ

(三) 保險契約者カ委託ヲ受ケスヤ他人ノ爲メニ契約ヲ爲シ而モ其旨ヲ保險契約者ニ通知セザリシトキ(第四〇二條)

契約者ニ通知セサリシトキ(第四〇二條)

危險發生シテ保險者カ填補ヲ行ヒタルトキ契約ノ消滅スルハ保險者カ保險金ノ全部ヲ支拂ヒタル場合ニ限ルモノニシテ一部ヲ支拂ヒタル場合ニハ其殘額ニ付テハ保險期間ノ殘餘ニ對シテ填補ノ責ニ任スルモノトス

以上八節ヲ以テ保險契約法ノ一斑ヲ說明セリ而シテ保險ノ種類ヲ異ニスルニ從テ尙ホ多クノ特別ナル技術的的法律的解明ヲ要スル諸點アリト雖モ詳義進行ノ便宜上之ヲ省ケリ請フ之ヲ諒セヨ

第四章 保險會社法

第一節 保險事業ノ性質及ヒ其國家ニ對スル關係

保險會社法ハ國家カ保險事業ヲ經營スル者即チ保險者ノ行爲ヲ檢制センカ爲メニ設クル所ノ行政法規ニシテ國體ヲ異ニセル多クノ國家カ保險事業ニ就テ凡ソ一定セル規定ヲ有スルコトハ全ク斯業ノ本質ニ起因スルモノニシテ猶ホ民情風俗ヲ異ニセル多クノ人種ノ間ニ於テモ凡ソ動カスヘカヲサル一定ノ羈絆アルコト全ク人類ノ本質ニ基キテ然ルカ如シ

但學者感ハ無期ノ確定公債ハ唯市場ノ買上ノミニ依リテ之ヲ償還シ得ヘキモノナリト論スル者アレトモ探ルニ足ラス蓋シ文化ノ進運ハ益々貨幣ノ供給信用ノ發達ヲ増加シ金利ハ漸次低下スルヲ原則ト爲スヲ以テ今世ノ公債ハ後世ニ於テ高利ノモノト爲リ低利ヲ以テ之ヲ借換ヘ率テ國家ノ經費ヲ節減スルコトヲ得ヘク國家信用ノ遞増スルニ從ヒ當事者雙方ニ於テ利便ヲ享有スルコト鮮クナラストス無期ノ確定公債ハ元金償還ノ請求權ヲ認メサルニ拘ラス人民ノ以テ不便ト爲ササル理由ハ一ニ其公債證書ノ賣買授與自由ナルニ存ス故ニ一方ニハ一定ノ實金ヲ放銀シテ永久ニ確實ナル一定ノ利子ヲ所得セントスルモノニ對スル好箇ノ方法タルノミナラス一方ニハ利子ノ支拂、金利ノ高低政府ノ信用其他各種ノ理由ヨリ其公債ノ取引價格ノ變動ニ因リ株式市場ニ利益ヲ得ントスル者ニ對シテ又一般ニ歡迎サルヲ常ナリトシ元金ノ收得ヲ要スルトキハ隨時之カ賣買ニ因リテ毫モ不便ヲ受クルコトナキヲ以テ各國ノ文化ノ發達ニ伴ヒ永久公債ハ漸次遞増ノ趨勢ヲ示スニ至レリ

株式取引所ニ於ケル公債ノ取引高ハ近時遞増シ倫敦取引所ノ如キ取引ノ目的物タル三千八百餘種ノ證券中三百五十種以上ハ公債證券ニ屬セリ殊ニ永遠公債ハ無記名トシ動産ト同一視セラルルヲ以テ株式取引所ニ於テ取引スルコト大ナルノミナラス殆ト金融界ニ於テ紙幣ト同一ノ效果ヲ生スルモノナリトス

之ヲ要スルニ無期ノ確定公債ハ全然國家ノ信用ヲ基礎ト爲スモノニシテ無期公債ノ起債ノ成立セラルル所以ハ適以テ其公債カ市場ニ於テ好價格ヲ保持スルコトヲ表彰スルモノニ外ナラス故ニ若シ其償還期限ノ定ナキニ安シテ等閑ニ付セー公債償還セラレサルニ一公債ヲ起シ漸次累積シテ後世ノ負擔ヲ遞増スルニ至レハ當ニ財政ノ發達整理ヲ阻碍スルノミナラス率テ無期公債成立ノ基礎タル國家ノ信用ヲ減殺スルコトナキヲ保セス故ニ永遠公債ハ猶ホ租稅制度ニ於ケル地租又ハ所得稅ノ如ク全ク單獨ニ此ノミニ依頼スヘキモノニ非シテ他ノ諸制度ト相待テ以テ收支ノ適合ヲ計ルヘキモノナルト共ニ經濟財政ノ發達セル國ニ在リテハ公債ノ最重要ニシテ且ツ發達セルモノナルコ

トヲ認メスンハ非サルナリ

第四章 公債ノ募集

第一節 緒論

公債募集ノ方法ハ之ヲ各種ノ標準ヨリ分類スルコトヲ得ヘシ而シテ之ヲ大別スレハ此カ募集ノ手續ヲ標準ト爲スモノト此カ公債ノ體様ヲ標準ト爲スモノト二者ト爲スコトヲ得ヘシ今此カ分類ヲ示セハ次ノ如シ

第一 募集ノ手續ヲ標準ト爲ス公債募集ノ方法

甲 直接發行法

乙 代理發行法

丙 請負發行法

第二 公債ノ條件ヲ標準ト爲ス公債募集ノ方法

甲 發行價額ヲ標準ト爲ス法

乙 割増發行法

ろ 平價發行法

は 割引發行法

乙 籤札ノ有無ヲ標準ト爲ス法

丙 償還基金又ハ抵當物ノ有無ヲ標準ト爲ス法

丁 記名ノ有無ヲ標準ト爲ス法

戊 募集ノ回數及ヒ拂込高ノ多寡ヲ標準ト爲ス法

こ 一時發行法又ハ高額拂込發行法

ろ 漸次發行法又ハ低額拂込發行法

第一及ヒ第二ノ標準ノ區別ハ主トシテ前者ハ公債ノ募集ヲ主觀的ニ觀察セルモノニシテ政府力直接募集間接募集孰レノ方法ニ依ルヘキヤヲ主トシ公債其モノノ體條條件ニ就テ論究スルモノニ非ス所謂公債證書發行法ト稱セラルモノ是ナリ後者ハ公債ノ募集ヲ客觀的ニ觀察セルモノニシテ公債ノ體條條件ヲ主トシ其如何ナル方法ニ依リ發行セラルルカハ問フ所ニ非サルナリ然レトモ此二者ハ常ニ相關聯シテ第二ノ種別ニ屬スヘキ募集條件力單獨又ハ二箇以

上合同シテ必ス第一ノ種別ノ孰レカニ依リテ發行セラルルモノニシテ且ニ密接ナル利害關係ヲ有スルモノナリ

上述二種ノ募集方法ニ通シテ別ニ限地發行法限人發行法ト稱セラルルモノアリ

限地發行法及ヒ限人發行法トハ通常特別募集ト稱セラルルモノニシテ政府カ或事業公債ヲ起スニ際シ其事業ニ付キ特別ノ利害關係ヲ有スル土地又ハ人民ニ對シテ募集スルモノナリ此方法ハ公債ノ體條募集ノ手續ヲ標準ト爲スニ非スシテ應募者ノ主體又ハ地域ヲ標準ト爲スモノナルヲ以テ便宜ノ爲メ此ニ通フルコトト爲セリ

此方法ノ利益ハ爲メニ利率發行價格等ニ於テ一般ノ募集ヨリ政府ニ於テ多少ノ利益ヲ得ルニ在リ佛蘭西ニ於テハ各都市ノ公共事業ニ於テ此例ニ依リシモノ多ク其募集ノ方法モ一般ニ其所在ノ人民ヨリ募集スルヨリモ其所在ノ地方團體商業會議所等カ請負發行法ヲ爲スヲ例ト爲セリ今世紀ノ下半期ニ於ケルハーヴル「マルセイユ」「ボルドー」「ドンケルク」「ローアン」「ガレイ」其他六港ノ築港事

業ノ如キ多ク此例ニ從ヘリ千八百七十年佛蘭西兵制改革ノ結果トシテ諸方ニ鎮臺ヲ設置スルノ要ヲ見ルヤ又特別募集ニ依リ三千二百餘萬圓ノ借入ヲ爲シ其貸付テ都市ノ數凡ソ八十五ノ多キニ上レリ或特定ノ土地又ハ人民ニ利害關係大ナルモノハ多クハ地方債ニ現ハレ又公債ニ於テモ之ヲ一般募集ト爲ストモ多少其地方ニ於ケル應募力ヲ大ナラシムルモノアルヘキハ當然ノ結果ニシテ唯其特效ヲ奏スヘキハ其地方ノ人民カ經費成效等ノ困難危虞ニ由リ此カ經營ニ躊躇スルニ當リ政府カ契約上此カ起業ヲ爲ス場合ニ在リ即チ所在ノ人民ハ斯業ノ成效ニ因リテ巨大利益ヲ得ヘク若シ失敗ニ了ルモ其投下ノ資本ハ之ヲ盡盡スルノ思ナク政府ヨリ之カ償還ヲ受クヘキニ由リ普通ノ條件ヨリ利子ノ歩合發行ノ價格等ニ於テ多少ノ不利アルモ進ミテ之カ募集ニ應スルヲ常ト爲スモノナレハナリ

第二節 直接發行法及間接發行法

直接發行法トハ政府自ラ發行ノ局ニ當リ募集ノ危險手數等一切ノ責ヲ負フモ

ノナリ代理發行法トハ政府カ發行價格利息歩合等總テノ條件ヲ規定シ其執行手續ヲ銀行等ニ代理セシムルモノニシテ銀行ハ唯一定ノ手数料ヲ得テ募集ノ媒介ヲ爲スニ止ムルモノナリ請負發行法トハ銀行又ハ一私人ト特約シテ公債募集總額ノ引受ヲ爲サシメ銀行ヲシテ一切ノ責ヲ負ハシムルモノニシテ銀行ハ漸次自己カ引受ケシ公債ヲ公衆ニ再賣スルヲ例トス直接發行法ノ不利ト爲ス點ハ要スルニ證書ノ價格ヲ廉ニシ利子ノ歩合ヲ高クスルノ二點アリ蓋シ銀行家ハ金融市場ノ實況ニ明カナルヲ以テ政府カ直接ニ發行スル場合ヨリ多少高キ割合ニテ引受クルコトアルヘク若シ政府直接ニ發行スルトキニハ銀行家ハ又應募者トシテ其間ニ同盟シテ非常ニ其價格ヲ下スコトアリ又直接發行法ハ請負發行法ノ如ク所定ノ總額ヲ得ルコトヲ確保スルコト克ハサルヲ以テ勢ヒ此カ募集ノ失敗ニ了ラサランカ爲メ利子歩合ヲ高クスル等其公債ノ體様ニ於テ不利ナル條件ヲ以テスルヲ例ト爲スヲ以テ徒ニ巨額ノ失費ヲ見ルコト多シト爲スモノナリ

公債募集ノ成效ノ有無ハ應募額ト募集額ト相一致スルニ存シ應募額ノ募集額

ニ下ルコト大ナル場合ハ固ヨリ全然失敗ニ了リシモノナルト同時ニ應募額ノ募集額ニ上ルコト大ナル場合モ亦等シク失敗ニ了リシモノト謂ハスンハ非ス如何トナレハ應募額ノ募集額ニ上ルコト大ナリトハ所要ノ募集額ヲ得ルニ足ルヘキ條件ヨリ猶ホ不利ナル體様ヲ以テセルコトヲ示スモノナリ所要ノ貸財ヲ購買シ得サル場合ハ所要ノ貸財ヲ非常ナル高價ニテ購買セタルト共ニ失敗ニ於テハ一ナレハナリ而シテ直接發行法ニテハ需要額ヲ得ルノ難キヲ過慮スルカ爲メ募集額ヲ低下スルノ弊多キヲ以テ投機ヲ目的トスル申込ヲ挑發シ應募額大ニ募集額ニ超過シテ投機ノ獎勵ヲ爲スコト多ク政府ハ一方ニ募集取扱割戻等ノ手數ヲ要スルノミナラス一方ニ民間ノ有力者資力ヲ識シテ募集ニ應シ爾後必要ノ結果トシテ伴フヘキ公債市價ノ騰貴ニ由リ之カ再買ヲ試ミ徒ニ此等少數者ニ壟斷セララル不當ノ利益ハ進ニ請負發行法ノ場合ニ銀行ニ與フル請負手數料ヲ超過スルコト數百倍ニ上ルノミナラス却テ投機獎勵ノ害毒ヲ流スコトナキヲ保セサルナリ

應募額大ニ募集額ニ超過スルコトハ各國其例ニ乏シト爲サス千八百六十

八年ノ佛國公債ハ應募額募集額ノ三十倍ニ達シ三十億法公債募集ノ時ハ十三倍ニ上リ露西亞ニテ「アストウオ」「アレンボルグ」間ノ四百萬圓ノ鐵道社債ハ四十倍ニ達シ千八百七十四年「ワイスタール」「ワラ」間ノ五百三十三萬圓ノ鐵道社債同年葡萄牙政府ノ鐵道公債ノ如キ共ニ百倍ニ上レリ此等ノ現象ハ明カニ應募額ノ募集額ニ下ルコトヲ悞ルルノ餘不當ニ公債ノ條件ヲ低下セルカ爲メ投機者流ノ應募ヲ盛ニシタルコトヲ示スモノニシテ彼ノ佛國西巴里府ニ於テ千八百七十六年ニ應募セシ公債ノ如キ當時ノ佛蘭西經濟雜誌ニ於テ「ボリユ」氏ノ如キ九十六ニテ發行スヘキコトヲ論述セルニ拘ラス九十三ノ割引ニテ發行セラレタルカ爲メ未タ十日ヲ經サルニ該證書ハ九十七乃至九十八ニテ賣却セラレ政府ハ徒ニ三分餘ヲ失ヒタリ

此ノ如ク直接發行法ハ價格ヲ低下シ利子ヲ高ムルノ不利多クシテ結局實質上ノ請負發行法ト爲リ其弊害夥シト爲サス寧ロ公然請負法ニ依リテ資本家中請負ニ對スル競争ヲ利用シテ市場相當ノ價格ヲ以テ發行シ而モ安全ニ所要ノ額ヲ取得スルノ便ナルニ如カス況ヤ公衆ハ又政府ノ募集ニ應スルノ不便ヲ避ケ

銀行ニ依ルヲ便ト爲スニ於テヲヤ
千八百七十五年及千八百七十六年巴里府ノ公債募集ノトキハ公衆ハ當初
募集ニ應セス其後八分若クハ一割式ク平價以上ニテ證書ヲ銀行ヨリ買入レ
シ者尠カラス蓋シ直接發行法ニ在リテ苟モ事實應募額カ募集額ニ超過スル
カ如キ應募者ニ利益アル場合ナランニハ低價遞減法又ハ高價遞減法等何レ
ノ方法ヲ執ルモ結局其大部分ハ常ニ銀行家ノ手ニ墜ツヘキコト明カナリ
トス

代理發行法ハ單ニ直接發行法ノ事務取扱ニ付キ銀行カ代理スルニ止マルヲ事
ロ一種ノ直接發行法ト看ルヲ便宜ト爲スノミナラス其利害關係ニ於テ二者頗
ル相類似セル所アリ而シテ此等方法ノ利害問題ニ付テハ既ニ上述スル所ニ據
リ請負發行法ヲ以テ利便ナリトスルハ各國ノ實例ニ徴スルモ亦殆ト言フ埃タ
ナル所ナリトス而シテ現時資本ノ増殖年ヲ逐フテ大ニ加ハリ銀行ノ數遞増シテ
國際間ヲ通シ金融ノ利便アルニ至リテハ特ニ一定ノ銀行又ハ資本家ノ組合ト
約ヲ定メテ請負ハシムルノ要ナク此カ請負ヲ一般ノ競争ニ付シ其銀行又ハ資

本家ノ組合中最モ高價ニテ買入ルヘキ者ニ之ヲ請負ハシムルノ法ヲ執ルニ至
リシヲ以テ銀行等ヲシテ巨利ヲ獲斷セシムルノ非難ヲ除去スルコトヲ得ヘキ
ノミナラス所定ノ募集額ヲ確實ニ收得スルノ利アルヲ以テ金融市場ノ狀況ニ
暗キ政府カ進ミテ直接發行ノ衝ニ當ルハ殆ト近時各國ノ執ラサル所ニシテ唯
代理發行法ニ於テ多少ノ例ヲ見ルアルノミ

英國ニ在リテハ第十七世紀ヨリ第十八世紀ノ初期ニ至ルノ間ハ重ニ代理發
行法ヲ用ヒ英國銀行ヲシテ代理ノ衝ニ當ラシメタリ其後「リヤムビツト」
ノ時ニ至リ競争請負發行法ヲ行ヒ爾後一二ノ例外ヲ除クノ外ハ總テ競争請
負發行法ヲ執レリ又佛國ニ在リテハ今世紀ニ於テハ中頃那破翁三世カ直接
發行法ヲ執リシ外ハ概シテ競争請負發行法ヲ執リ近時歐米各國ハ皆競争請
負發行法ヲ執ルヲ原則ト爲セリ我邦ニ在リテハ專ラ日本銀行ニ由リ代理發
行法ヲ執ルモ其募集費ハ外國ノ場合ニ比シテ僅少ナルカ故ニ代理發行法ト
シテハ比較的良好ナルモノニ屬セリ殊ニ我邦ノ經濟界ハ未タ競争請負發行
法ニ依ルコト能ハサルハ言フ埃タサル所ナリトス

直接發行法ノ不利ナルコトハ既ニ上述スル所ノ如シ然レトモ此方法ニ附帶シテ低價遞減法及ヒ高價遞減法ヲ行フトキハ又多少ノ利益ナシト爲サス此等ノ遞減法ハ請負發行法ニ於テハ之ヲ望ムコト難キヲ以テ代理發行法等ニ此等ノ遞減法ヲ用フルトキハ又特種ノ效果ヲ有スヘキモノナリトス

低價遞減法トハ應募高募集高ニ超過スルトキハ應募價格ノ高キ者ヨリ漸次ニ證書ヲ交付シ政府ノ募集高ニ滿ツルヲ以テ之ヲ止メ其同價ノモノニ對シテハ應募額ニ比例シテ之ヲ削減スルモノニシテ又高價發行法高價無減法ト曰フ蓋シ直接發行法及ヒ代理發行法ニ在リテハ政府ノ募集ノ荷ニ當ルモノナルヲ以テ政府ノ信用ヲ維持シ公債募集ノ成效ヲ熟望スルノ餘低價高利ノ弊ニ陷リ易ク其極應募高募集高ニ數十倍スルカ如キ失態ヲ見ルコト多キハ既ニ上述スル所ナリ隨テ此等ノ場合ニ於テ政府カ低價遞減法ヲ行フ旨ヲ明カニセハ應募者ハ其申込ノ金額ヲ受取ルコト能ハサルコトヲ虞レテ發行價格以上ノ申込ヲ爲シ需要供給ノ原則上自然ニ價格ノ昂騰ヲ來シテ市場相當ノ價格ニ至ルヲ例ト爲レ或ル程度マテハ低價高利ニ因ル弊害ヲ減殺スルコトヲ得ヘキモノナリ

低價遞減法ノ實例ハ各國其例ニ乏シカラス今我邦ニ於ケル實例ノ重ナルモノヲ舉レハ次ノ如シ

明治十七年ヨリ十八年マテ三回ニ發行セル中仙道鐵道公債ハ我邦ニ於テ低價遞減法ヲ以テ募集セシ嚆矢ニシテ第一回ノ發行額面高ハ五百萬圓發行價格ハ百圓ニ付キ九十圓トシ其實收額ハ四百五十萬三百九十六圓ニ上リ第二回ハ發行額面高ハ一千萬圓發行價格ハ百圓ニ付キ九十圓トシ其實收高ハ九百萬六千八百八十四圓ニ上リ第三回ノ發行額面ハ五百萬圓發行價格ハ百圓ニ付キ九十五圓ニ改メ其實收高ハ四百七十八萬四千六十八圓ニ上レリ

明治十九年ヨリ二十年マテ四回ニ發行セル海軍公債第一回ノ發行高ハ五百萬圓ニシテ實收高ハ五百十八萬七千八百圓ニ上リ其最高價格ノ百圓ニ對シ百十圓ノ多キニ上リタリ(第二回以下省略)

明治十九年ヨリ二十五年マテ前後八回ニ發行セル整理公債ハ第一回ニハ百圓ニ付キ發行價格九十八圓ト爲シ他ハ總テ平價發行ト爲セシカ實收高ハ常ニ百圓ニ超過スルコト四五錢ヨリ多キハ三圓餘ニ達シタリ

明治二十二年發行セル鐵道費補充公債ノ如キハ平價發行ナリシモ實收額ハ百圓ニ付キ百三圓十五錢強ニ上リ募集額ニ超過スルコト七千〇九十一圓ニ達シタリ

其他鐵道公債軍事公債等何レモ低價遞減法ニ依リ皆多少ノ成效ヲ見ルニ至レリ然レトモ注意ヲ要スヘキハ低價遞減法ヲ用ヒテ之ニ因リテ削減セラルル申込額ノ大ナル丈ケ又其最高價格申込ノ高ナル丈ケ一方ニハ政府カ公債ノ募集ニ對シ低價高利ノ甚シカリシコトヲ證明スルコトニシテ高價遞減法ノ成效大ナル丈ケ政府當初ノ豫定ノ事實ニ違カルコトヲ現ハスモノナリ高價遞減法トハ應募募集高ニ超過スルトキニ一定ノ申込額以上ノモノニ限リ其中込高ニ比例シテ之ヲ削減スルモノニシテ又小額無減法小額發行法ト曰フ此方法ハ主トシテ社會政策主義ヲ加味セルモノニシテ下級人民ノ手ニ落ツル所ノ證書ノ數ヲ増加シ應募者ノ數ヲ大ニシテ公債證書ノ普及ヲ期スル方策ナリトス即チ一方ニハ漸次下級人民ヲシテ貯蓄獎勵ノ端緒ヲ發シ一方ニハ一部ノ實本家ノ投機ノ具ト爲ルコトナク之カ證書ノ普及ハ之ニ對スル利害關係

者ノ數ヲ増スニ外ナラサルヲ以テ政府ノ信用社會ノ安寧維持ニ對シ又多少ノ效果ナシトセス此法ハ佛蘭西ニ於テ最多ク用ヒラレ我國ニ在リテモ整理公債ノ普通募集ノ場合ノ如キ又等シク此法ヲ行ヒタリ

第三節 公債ノ條件ヲ標準ト爲ス公債募集方法ノ分類

第一款 割増平價及割引發行法

割増發行法トハ額面高以上ノ價格ヲ以テ發行スルモノニシテ募集高價還高ヨリ大ナル場合ナリトス此方法ハ其他ノ條件ノ如何ニ依リ又ハ市場遊金ノ多少公債其モノノ性質政府ノ信用ノ大小等ニ依リ此ヲ起スコトヲ得サルニ非ナレトモ徒ニ人民ノ感情ヲ害スルノ嫌ナシト爲ササルノミナラス寧ロ利子其他ノ條件ヲ變更シテ平價發行ヲ爲シ得ヘキモノナルヲ以テ實際ニ殆ト其例ヲ見サル所ナリトス

平價發行法トハ額面高ヲ以テ發行スルモノニシテ募集高ト償還高ト相等シキ場合ナリトス

割引發行法トハ額面高以下ノ價格ヲ以テ發行スルモノニシテ募集高價還高ヨリ小ナル場合ニシテ又呼價發行法ト稱セラルルモノナリ蓋シ割引發行ノ必要ハ多ク政府發行ノ公債ノ利子カ一般市場ノ利子ヨリ低キカ若クハ募集ノ結果市場ノ利息昂騰シテ公債ノ利息ヨリ上ルヘキ場合カ或ハ政府ノ信用薄弱ナル等總テ募集困難ノ際ニ於ケル一ノ調和策トシテ用ヒラルルモノニシテ近時ハ一般ニ利子其モノノ歩合ヲ變更スル代リニ割引ノ高低ヲ爲スモノ亦尠シト爲サズ今其利益ナリトスル重ナル點ヲ舉クレハ次ノ如シ

第一 割引發行ノ場合ニハ低價還減法ニ依リテ實際豫定ノ價格ヨリ多額ノ實收額ヲ得ヘキコト

北米合衆國ニ於テ大藏大臣ガラチン氏二百萬弗ノ公債ヲ募集スルニ際シ額面百弗ニ付キ總テ九十三弗ノ割引價格ヲ以テシ其中込價格ニハ額面百弗ニ付キ平價ヨリ九十三弗マテノ等差アリシモ總テ之ヲ九十三弗ニテ發行シタリ然レトモ此ノ如キ極端ナル公平ハ商業上ニ於テ行ハルルコトナキノミナラス經濟上需要供給ノ原則ニ依ルモ強テ九十三弗ニ一致セシムルコトハ却

テ公平ノ實ヲ舉グルモノト謂フヘカラス如何トナレハ應募者ノ各自其融通シ得ル資本ニ對スル事情國債ノ信用利益ニ對スル需要ノ程度ハ各自其趣ヲ異ニスルノミナラス公債其モノノ價格ハ他ノ貨物ノ價格ノ如ク精確ヲ得ヘキモノニ非サレハナリ故ニ此ノ如キ極端ナル例ハ一般ニ執ラサル所ニシテ隨テ低價還減法ニ依リ多額ノ實收額ヲ見ルコト其例多シト爲スモノナリ

第二 割引發行ハ平價發行法ヨリモ利子低廉ナルカ故ニ外見ニ於テ政府ノ信用大ナルカ如キ觀アルコト

第三 利子ノ歩合比較的低下ナルニ由リ表面上人民ノ負擔上一般ノ感情ヲ害スルコト少キコト

第四 利息制限法ニ依リテ平價募集ヲ爲ス能ハサル場合ニ於ケル調和ノ手段ト爲ルコト

第五 平價發行法ニ比シテ政府ノ實收額大ナルコトヲ得ヘシ即チ今平價發行ノトキハAナル額ニ對シ五分利附ナリトシ之ヲBナル額ニ割引スルトキハ四分利附ト爲ルヘキ場合ニ於テハ事實四分利附ニテBナル額マテ割引スルコト

ヲ要セスBヨリ多キ額ニテ猶ホ四分利附ヲ以テ募集スルコトヲ得ヘキコトイ
割引發行法ハ英國ニ於テ北米合衆國獨立戰爭ノ後ウヰリヤムピクト力當時國
事多端ニシテ利息ノ歩合高キヨリ利息制限法ヲ避タルカ爲メ實收高百磅ニ對
シ三分利附ノ百八十磅或ハ百九十磅ノ證書ヲ發行セルニ始マリ爾後各國ニ於
テ盛行ハルル所ナリ殊ニ英國ノ如キハ此外平價發行法ニ年金ヲ附帶シテ事
實上割引發行法ヲ行ヒ千八百五十五年クリミア戰爭ノ爲メ起セシ一億六千萬
圓ノ公債ニ二分ノ利子ヲ附シ千圓ノ拂込ニ對シテ三十年間七圓二十四錢ノ年
金ヲ附スルカ如キ近時ニ至ルモ猶ホ此錯雜ニシテ弊害多キ方法ヲ慣行セリ我
邦ニ於テモ明治十一年ノ超業公債ニ於テハ六分利附ニテ額面百圓ニ付キ八十
圓ノ割引發行法ヲ行ヒ近時軍事公債ニ至ルマテ割引發行法ヲ行ヘル例尠シト
爲ナス

割引發行法ニ於テ前掲利益アリト爲ス點ハ第一ノ如キ平價發行法ニ於テモ等
シタ低額遞減法ヲ行フコトヲ得ヘキヲ以テ割引發行法ニ特有ノ利益ト爲スヘ
キノミオラス第二第三ノ如キハ固ヨリ表面上一時ノ利益ノ假現ニシテ却テ後

來ニ重大ナル害毒ヲ貽スモノタリ又第四ノ如キハ昔時利息制限法ノ規程存セ
シ時代ニ於ケル理由ノ一タルヲ失ハサルヘキモ今日ニ於テハ利息制限法其モ
ノカ一般ニ認メラレサルヲ以テ復タ割引發行法ノ利益ト認ムヘカラス而シテ
第五ハ結局一種ノ割増公債ト同シタ應募者ニ於ケル射利心投機心ヲ利用スル
モノナリ即チ平價發行ノトキハ平價以上ニ上ルトキハ政府ハ進ミテ借換ヲ行
ヒ其價格ノ變動ヲ防クコトヲ得ヘキニ依リ割引發行ノ場合ノ如ク變動ノ區域
大ナルコトヲ得ス又平價發行ノ證書ノ利子ハ高シトモ割引價格ト償還價格ノ
差異ニ由ル利益ノ如ク大ナルヲ得ス而シテ年年抽籤ニ由ル償還ニ因リ應募者
カ早ク當籤スヘシトノ僥倖心ニ由リ平價發行ノ場合ヨリ利子及ヒ割引額ノ歩
合ニ因リテ多少ノ利益ヲ得ルコトナシト爲サス即チ眞ニ貯蓄ノ方便トシ資本
ノ利殖ノ方便ト爲ス者ニ在リテハ利害關係尠キモ其證書價格ノ高低ニ依リテ
利益ヲ博セントスル投機者流ノ最モ歡迎スル所タルヘキハ又言フ埃タサル
ナリ

割引發行法カ一時利子ノ支拂ヲ輕減シ時ニ平價發行ヨリモ多少ノ實收ヲ増ス

ヘキハ事實ナリト雖モ之ニ伴フ弊害ハ過ニ之カ利益ヲ超過スルモノナリ如何トナレハ居常多少ノ利子支拂ニ於テ輕減セラルルモノハ償還ノ際ニ於テ一時ニ巨額ノ支拂ヲ爲スヘキモノタルヲ以テ此カ償還ノ時期漸次延期セラレ償還ノ困難ヲ助長スルハ定期公債ノ下ニ於テ通ヘタル所ト異ナルコトナシ而シテ其最モ通弊ト爲ス所ハ此カ借換ノ困難ナルニ在リ割引發行法ノ利子ハ市場ノ利子ヨリ歩合低キノミナラス公債募集後市場平穩ト爲リ年々運フタ金利漸次下落スレハ平價發行法ニ依ルモノハ便宜之カ借換ヲ爲シ得ルニ拘ラス割引發行法ニ在リテハ之カ利便ヲ失ヒ平價發行法ノ場合ニ比シテ多少ノ損害ヲ甘ンスヘキ觀ヲ生シ結局未來ニ重大ナル義務ヲ殘スコト平價發行法ヨリ大ナリト謂ハスンハ非ス北米合衆國ノ如キ割引發行法ノ比較的無事ニ償還セララルハ一方ニハ其發行度數少キト一方ニハ產業隆盛ニシテ民富遞増レ國庫ノ剩餘金又多キニ由ルモノニシテ千八百六十六年ガラチン氏ノ財政報告ニ於テハ割引發行法ノ公債償還ニ阻碍ヲ與フルコト大ナルコトヲ論シ三分利附公債ニ成變更ヲ行フヘキ權限ヲ與ハラレンコトヲ請ヘリ而シテ之ヲ歐洲各國ノ實例ニ徵スレ

ハ近時公債ハ巨額ニ累積シテ久シク償却セラルルコトナク「ロア、ボリユー」氏ノ如キ歐洲諸國ノ公債ノ永續スルコトハ其原因專ラ割引發行法ニ存スルモノナリト言フニ至レリ

第二款 籤札附發行法

籤札附發行法トハ證書ニ籤札又花札ト曰フヲ附シ利拂ノトキ證書ノ所有者ニ抽籤ヲ行ハシメ其當籤者ニハ所定ノ利子ノ外更ニ若干ノ金額ヲ與フルノ方法ナリ其人民ノ射倖心ヲ目的ト爲スハ割引發行法年金附發行法ト相異ナルコトナク其利害問題モ亦絕對ニ之ヲ論定シ難キコトハ上述スル所ナリ本論ニ就テハ既に前章確定公債中割増公債ノ下ニ於テ其大要ヲ説明シタルヲ以テ此ニ之ヲ略ス

第三款 償還基金又ハ抵當物附發行法

公債ハ其募集ノ當時元利支拂ノ方法等ニ付キ精確ナル計畫ヲ豫算スヘキコト

固ヨリ當テ埃タス而シテ往時信用未タ豐固ナラサル時代ニ在リテハ債權者モ對スル元利支拂ノ法トシテ償還基金ノ法ヲ設クルヲ例トシ英國ノ如キハ今日ニ於テ猶ホ此方法ヲ半守セリ其設定ノ方法ハ或ハ當初ヨリ募集金ノ幾分ヲ割キ利倍増殖ノ法ニ依ルアリ或ハ特別ノ租稅ヲ以テ之ニ充ツルアリ或ハ一般收入ノ一部ヲ割キテ之ニ充ツルアリ英國ノ如キハ當初各公債ニ應ジテ各種ノ租稅ヲ以テ特別基金ト爲セシモ其煩雜不便ヲ避クル爲メ千七百十五年ヨリ特別基金ヲ合シテ一基金トシ便宜各種ノ公債ヲ償還スルコトト爲セリ
抵當物ヲ附スルノ法ハ又往時一般ニ行ハレシ法ナリト雖モ今日ニ於テハ唯財政ノ薄弱ナル政府ニ貸與スル外國債ニ於テ之ヲ見ルニ過キス我邦ニ在リテモ維新前諸侯カ金主ヨリ借財ヲ爲ストキハ多ク物品稅ヲ抵當ト爲スヲ例ト爲シタリ方今ニ在リテ信用ノ發達上一般ニ抵當物ヲ附スルコトナキモ事業公債ノ類ハ其事業ノ收益ニ依リテ之カ元利ノ全部又ハ一部ノ償還ヲ得ヘキモノナルヲ以テ其事業自體カ間接ノ擔保タルヘキモノナルニ由リ一般ニ他ノ公債ニ比シ起債力大ナリトス

各藩ノ租稅ハ概テ物品稅ニシテ此物品ノ處分ニ付テハ各藩多少ノ相違アレトモ要スルニ其物品ハ商買ニ賣却スルコトナルカ何レノ藩ト雖モ收入ノ大部分ハ江戸邸並ニ參勤交代ノ費用ト公役金賦課ニ費消セラレテ租稅收納前既ニ早ク借金ヲセサル者ナケレハ其收納物ハ之カ償却ニ仕向クルモノ多シ而シテ西國ノ諸侯ハ勿論其他ノ藩ト雖モ其債主ナルモノハ概テ大坂ニ在リテ收納物ハ皆大坂ニ運搬シ其之ヲ處分スルニ付テモ直チニ抵當物ナリトテ債主ニ引渡スハ藩ノ不面目ナリトシ各藩各自ニ賣却スルカノ如ク變フモ實際ハ債主ニ差押ヘラレタルト同一ノ結果ヲ以テ賣捌クナリ(中略)

當時ニ在リテハ其藩ノ財政好都合ナル時ハ抵當ヲ要セサルモ然ラサルトキハ皆抵當ナキハナシ左レト賣物ノ如ク物品ヲ送ルニ非ス今同ノ借財ニ對シテハ何ノ租稅ヲ引當トセン或ハ平年大坂ニ輸送スル米ハ何萬石ナルモ何萬石ニ増加スヘシト片約束ノ如キコトヲ爲ス然ルニ其實當時ニ在リテハ相互ノ約束ト異ナルコトナク又引當ト稱スルハ今ノ抵當ト相同シキモノナリ云云(國家學會雜誌第百三十七號末松博士ノ「封建時代ノ財政變遷」)

就債基金法ノ不可ナルコトハ公債ノ管理及ヒ償還ノ章ニ於テ之ヲ論述スル所アルヘキヲ以テ此ニハ其大略ヲ述フルニ止ムヘシ由來減債基金法ハ無用ニ巨額ノ資金遊金ト爲スノミナラス事實此法ノ設定ハ債權者ヲ以テ必ス此基金ヨリ其負債ヲ支拂ハシムル權利ヲ與フルモノニ非スシテ政府ハ財政上此基金ヲ他ニ流用シ得ヘキモノナレハ單ニ名義上債權者ニ多少ノ安心ヲ與フルニ過キサルモノナリトス隨テ政府ノ信用發達セル今日ニ於テ特ニ此等姑息ノ手段ヲ用フルマテモナク歳入ノ剩餘又ハ當該年度ノ特別收入アル場合其他財政ノ緩急ニ應ジテ之カ償却ヲ爲スヲ以テ足レリト爲スモノナリ彼ノ抵當物ヲ附スルカ如キモ其抵當物ハ私人小額ノ取引ノ擔保ト爲ル場合ト異ナリ巨額ヲ要スルモノナルヲ以テ性質上無効ニ陷ル場合多シ秘密ノデワノ爲蓋土耳其其ノアナトリー羊ノ如キ此類ナリ

第四款 記名發行法及ヒ無記名發行法

公債證書ヲシテ其法價ヲ維持シ之カ利便ヲ大ナラシメンニハ先ツ此カ利用融

通ノ便ヲ圖カスニハ非ス即チ單ニ普通ノ指名債權ト異ナリテ賣買取引ニ利用セシメ商事契約ノ擔保品ト爲サシメ紙幣發行ノ準備タラシムル等總テ金融上ノ利器トシテ此カ移轉ノ便ヲ計ルコトヲ要ス近時無期ノ公債認メラルルニ至リテハ殊ニ其必要大ヲ加ヘ無記名ノ制ハ廣ク行ハル所ト爲レリ各國ノ法律又之ニ對シ多ク勸産ト同一ニ看做シ交換ノ媒介トシテハ紙幣ト殆ト同一ノ機能ヲ有スルニ至レリ然レトモ一方ニハ公債其モノノ移轉ヲ望ムコトナク單ニ利息ノ收入ヲ以テ足レリト爲ス者ニ對シテハ記名ノ制ハ火災盜難紛失毀損等ノ危險ニ對シ一ノ保障ト爲ルヘキヲ以テ又無用ナリト謂フヘカラス隨テ所有權ノ請求ニ因リ一定ノ手数料ヲ附シテ記名又ハ無記名ト爲スコト最モ便利ニシテ各國ニ於テ又遍ク行ハル所ナリ

第五款 募集ノ回數及ヒ拂込ノ多少ヲ標準ト爲

ス法

募集ノ回數少ケレハ拂込高多ク募集ノ回數多ケレハ拂込高少シ面シテ募集ノ回數ノ多少換言スレハ一時ニ公債ヲ募集スヘキカ漸次ニ公債ヲ募集スヘキ

カハ主觀的ニハ其需要ノ緩急ニ支配セラレ客觀的ニハ供給ノ狀況ニ支配セラレ蓋シ一時募集ノ法ハ市場ノ狀況ニ由リ稀ニ漸次募集ヲ爲シ難キ場合又ハ其公債ハ戰爭事變ニ際シ一時ニ總額ノ需要急迫ヲ告クルカ如キ例外ノ場合ヲ除クノ外ハ勉メテ避クヘキ手段タリ是レ一方ニハ一時ニ巨額ノ流通資本ヲ吸收シテ金融市場ノ擾亂ヲ來スヘク一方ニハ急促ノ需要ナキ資金ニ對シテ等シク無用ノ利子ヲ支出スルモノナレハナリ漸次ノ募集方法ニ於テモ猶ホ其募集同數ノ多寡ニ伴ヒ拂込高ニ大小ノ差異ヲ來スヘキコト固ヨリ言テ埃タス同數ヲ多クスルハ下級人民ノ貯蓄獎勵ノ一法タルハ高額遞減法ト同一ノ主旨ニ出ツルモノ一方ニハ拂込ノ手續ヲ重キルノ不便アリ我邦ノ如キハ多ク二回乃至五回ヲ平均ト爲スモ佛蘭西ノ如キハ下級人民ノ貯蓄心厚ク政府亦此カ獎勵ニ留意スルヲ以テ通常募集ノ同數十回ニ亘ルヲ例ト爲シ普佛戰爭ノ際十二億圓ノ國債ヲ募集セシ場合ノ如キ拂込ノ度數ハ二十一回ノ多キニ上レリ蓋シ募集ノ同數ハ市場ノ狀況募集額國債ノ性質等各種ノ點ニ由リ多少ノ斟酌ヲ加フヘキモ成ルヘク其同數ヲ多クシテ下級人民ヲシテ此カ募集ニ應スルノ便ヲ開クハ社

會政策上喜フヘキコトナリトス

募集同數ノ多少ニ拘ラス此カ拂込ノ當初ニ際シ保證拂ノ制ヲ設クルハ各國共ニ一致スル所ナリ保證拂トハ公債ノ申込ヲ爲ス時同時ニ申込ノ保證トシテ其申込高ノ一部ヲ拂込マシムルノ法ニシテ申込後市場ノ狀況應募者自體ノ都合上之カ拂込ヲ怠リ政府當初ノ目的ヲ誤リ再ヒ不足ノ部分ニ達シテ募集ノ手續ヲ重キルノ弊害ヲ避クルカ爲メニシテ各國保證拂ノ額ハ其中込額ノ一割ヲ以テ例ト爲セリ普佛戰爭ノ際ハ戰時ニ際シ此カ拂込ノ確實ヲ期スルコト必要ナルニ於テ拂込ヲ爲ササルトキハ之ニ若干ノ期間ノ猶豫ヲ與ヘ其期間中ニ拂込ヲ爲ストキハ之ニ其遲延利子ヲ附スルコトヲ條件トシ此期限ニ至リテ猶ホ拂込ヲ爲ササルトキハ之ヲ沒收スルヲ例トス整理公債條例第八條參照是レ一般株式會社ノ株式申込ニ於テモ等シク見ル所ニシテ數次ノ拂込ニ對シテ當然伴フヘキ制度ナリトス

公債ハ汎ク社會ノ階級ニ普及セラルルモノナルヤ又普及シ得ヘキモノナルヤ若シ普及シ得ヘシトスレハ社會現象トシテ喜フヘキモノナルヤ此等ハ財

政治上經濟上政治上ニ通シテ最モ重要ナル問題ニ屬セリ茲ニ之ヲ詳論スルコトヲ得ナルハ余輩ノ甚タ遺憾ト爲ス所ナレトモ左ニ「アダムス氏」ノ所見ノ一片ヲ摘載シ公債ノ分配ニ關スル研究ノ資ニ供スヘシ但シ氏ノ所論ニ對シ全然同意ヲ表シ難キ點アルハ余輩ノ上述スル所ニ據リ自ラ明カナルヘシ公債ニ伴フ社會的勢力ハ公債ノ所有者カ國民間ニ分配スル有様ニ依リテ定マルモノナリ公債ノ所有者廣ク國民間ニ普及スルハ政治上産業上社會ノ健全ナル狀態ヲ示スモノナリトハ普ク世上ニ行ハルル一說ナリ例ヘハ佛國ニ於テハ多數ノ國民公債ヲ所有スルハ佛國ノ學者常ニ自贊スル所ニシテ彼等ノ所謂平民的ノ公債ト稱スルモノナリ即チ一千八百七十年ヨリ一千八百七十六年ニ至ル六年間佛國ニ於テ發行シタル公債ノ額ハ從前ニ二倍シ公債所有者ノ數ハ四倍ニ上リ一千八百七十六年十二月三十一日ニ於テハ公債所有者ノ人員ハ四百四十萬四千七百六十三人ノ多キニ達セリト云ヘリ然レトモ之ヲ總然タル財政上ノ點ヨリ觀察スルトキハ公債ノ所有者一般ニ普及スルハ必スシモ喜ブヘキコトニ非ス公債所有者ノ人員多キトキハ實ニ公債取扱上

ノ費用ト手續トヲ增加スルノミナラス政治家ニ黨派若クハ自己ノ便利ノ爲メニ公債所有者ヲ利用スルノ便ヲ與ヘ財政家ノ目的ヲ阻害スルコトアリ現ニ佛國ニ於テ政府ハ公債所有者ノ投票ヲ失ハシコトヲ恐レ公債ノ借換ヲ爲サス數年間一般ノ利率ヨリ高キ利息ヲ公債ニ支拂ヒタルコトアリ又經濟上ヨリ論スルモ公債ノ普及スルハ必スシモ實益スヘキモノニ非ス蓋シ全國民總テ生産的ノ事業ニ熱中スルハ是レ經濟社會ノ健全ナル狀態ナリ故ニ公債ノ利子ヲ國家ヨリ受取り安逸ノ生計ヲ爲ス者多キトキハ國家ハ經濟上國民ノ活動ヨリ生スル利益ヲ失フモノニシテ公債所有ノ一般ニ普及スルコトヲ可ト爲ス者ハ全ク社會的ノ思想ニ基ケルモノト謂ハサルヘカラス

第五章 公債ノ管理

第一節 緒論

公債ノ管理ナル意義ハ之ヲ廣義ニ用フルトキハ凡ソ三部ニ分ツコトヲ得ヘシ公債ノ募集公債ノ變更及ヒ公債ノ償還是ナリ之ヲ狹義ニ用フルトキハ其一部

タル公債ノ變更ノミヲ意味スルモノニシテ予ハ茲ニ公債ノ管理ナル意義ヲ狹義ニ用ヒ公債ノ募集及ヒ公債ノ償還ニ至リテハ之ヲ前章及ヒ次章ニ於テ講述スルコトト爲セリ

公債ニ關スル政府財政上ノ行動ハ最少ノ勞費ヲ以テ最大ノ利益ヲ得ルヲ目的ト爲スヘキハ言ヲ埃タサル所ナリ而シテ此目的ヲ達スルカ爲メ公債ノ募集及ヒ償還以外ニ新ニ公債變更ノ手段ヲ用フルニ至リシハ近時公債ノ發達ニ伴フ特徵ノ一ニ算定セスハ非ス蓋シ茲ニ公債ノ變更ト稱スルハ在來ノ契約ノ形式ノ變更ヲ指スモノニシテ元金利子ノ歩合償還及ヒ支拂期限據置期間擔保額札等凡テ公債ノ體様ノ一ヲ變更スルモ又公債ノ變更ニ外ナラサルモ所謂最少ノ勞費ヲ以テ最大ノ利益ヲ得ヘキ財政上ノ手段ニ至リテハ常ニ利子ノ歩合ノ變更ニ在リ故ニ學者咸ハ公債ノ變更ト稱セスシテ公債ノ借換又ハ公債利子ノ管理ト稱スルコトアリ

「ヘンリー・シ、アダムス」氏ノ如キモ亦利子ノ低減ヲ主トシ公債ノ元利償還ハ絶エス國民ニ負擔ヲ貽スモノナルヲ以テ財政家ハ正當ノ手段ニ依リテ此負擔

ノ輕減ヲ計ルヘキモノナリトシ此目的ニ由リ政府カ公債ヲ管理スルニハ左ノ三箇ノ理想ニ據ルヘキモノト爲セリ

一 平時公債ヲ利用スル方法アルトキハ公債ノ弊害ヲ除去シ此カ效驗ヲ大ニスルコトヲ得ヘシ

即チ公債ノ利用ト稱スヘキモノニシテ氏ハ主トシテ公債ヲ以テ銀行ノ紙幣發行ノ準備ト爲スコト商業上ノ擔保品トシテ利用スルコト利子ノ期限前拂臨時ノ公債買上等ニ因ル金融市場ノ救済等ヲ論述セリ

二 公債ノ利率ヲ低減スルコトヲ得ハ公債ノ負擔ヲ減少スルコトヲ得ヘシ

即チ氏カ公債ノ借換ト稱スルモノニシテ本章ニ於テ主トシテ講述スルハ同ノ地ノナリ

三 公債ノ負擔ハ借入レタル元金ノ償還ニ因リテ之ヲ除去スルコトヲ得

即チ氏カ公債ノ償還ト稱スルモノニシテ次章ニ於テ講述スヘキモノナ

公債ノ利子ノ變更ハ之ヲ大別シテ公債ノ借換及ヒ公債ノ利子引下ノ二者ト爲スコトヲ得ヘシ面シテ其ニ合法ナル場合ト違法ノ場合トアリ但シ公債ノ利子ノ引下ハ國家財政ノ非況ニ陷リシ場合ノ窮策トシテ之ヲ例外ト爲シ公債ノ借換ヲ以テ公債管理ト殆ト同意義ニ用アルハ多クノ著書ニ於テ見ル所ナリ予ハ本章ニ於テハ第二節ニ於テ公債ノ借換第三節ニ於テ公債ノ利子引下ノ二者ヲ論シ序次ノ便宜ノ爲メ第四節ニ於テ公債ヲ課稅物件ト爲スノ可否ニ付キ一言スル所アルヘシ

第二節 公債ノ借換

公債ノ借換ハ又廣ク既ニ現存セル公債ノ形式ヲ變更スル財政上ノ處分ヲ意味スルコトアリ然レトモ茲ニ所謂公債ノ借換トハ高利ノ公債ヲ新ニ低利ノ公債ト交換スル財政上ノ處分ヲ謂フモノニシテ之ヲ借換ノ強制ニ依ルト隨意ニ依ルトニ由リ強制的公債ノ借換ト任意的公債ノ借換ノ二種ニ分ツコトヲ得ヘク

設定スルモノハ公益ノ爲メニ非ヌヤ故ニ無形人ノ設立ニ關スル法律ハ公益上ニ關スルモノナリ社會ノ權利ニ關スルモノナリ社會ノ權利ヲ目的トスル法律ハ如何ナル性質ヲ有スルカ是レ管入法ニ非スシテ管地法ナリ而シテ管地法ノ性質タルヤ一國內ニ限リ決シテ之ヲ外國ノ地ニ適用スルコトヲ得サルモノトス一國ニ於ケル或無形人ヲ侵害アルモノト爲シ之ヲ禁止セシニ若シ外國ニ設定シタル同種ノ無形人カ侵入スルヲ得ンニハ其禁止ハ全ク無効ニ屬スヘシ一國ノ公益タルモ外國ノ公害ト爲ルコトアルヲ以テ外國無形人ノ存立ヲ認許スヘキヤ否ヤニ付キ可否ヲ貯存セサルヘカラス云云是レ「ローラン」氏ト見解ヲ同シウスルモノナリ

新民法第三十六條ニ曰ク「外國法人ハ國國ノ行政區畫及ヒ商會社ヲ除ク外其成立ヲ認許セス但法律又ハ條約ニ依リテ認許セラレタルモノハ此限ニ在ラズ」前項ノ規定ニ依リテ認許セラレタル外國法人ハ日本ニ成立スル同種ノ者ト同一ノ私權ヲ有ス但外國人カ享有スルコトヲ得サル權利及ヒ法律又ハ條約中ニ特別ノ規定アルモノハ此限ニ在ラズ」舊民法人事編第六條ニ曰ク「法律ハ外國

法人ノ成立ヲ認許セス但條約又ハ特許アルトキハ此限ニ在ラス成立ノ認許ヲ得タル外國法人ハ日本ニ成立スル同種ノ者ト同一ノ私權ヲ有ス但條約中又ハ特許中ニ其權利ヲ制限セタルトキハ此限ニ在ラスト云々
新民法第三十六條ノ末項ハ舊民法人事編第六條並ニ其草案但書ヲ除クト殆ト規定ヲ同シウス今此等ノ條文ヲ按スルニ外國法人ハ日本ニ於ケル同種ノ法人ト同一ノ權利ヲ有スルカ故ニ本國ニ於テ享有スヘカラサル權利ヲモ享有スルニ至ルヘシ果シテ然ラハ是レ法人ノ認許ニ非スシテ創立ナリ故ニ認許ノ性質ニ反スルカ如シト雖モ到底此ノ如キ解釋ヲ下ササルヲ得ス或ハ民法第三十六條第二項ハ外國法人カ日本ニ於ケル同種ノ法人ニ比シ多量ノ權利ヲ享有スヘカラサルコトヲ規定シタルモノナリト曰フ者アレトモ此解釋ハ但書ノ意味ヲ沒了スルモノト謂フヘシ

我民法第三十六條第二項ノ如キ規定ヲ設ケサル國ニ在リテハ公益ニ牴觸セサル範圍ニ於テ外國法人ハ其本國ニ於テ享有スル權利ヲ享有セシムル例劬カラス而シテ外國法人就中會社ノ國籍ヲ定ムル標準如何ヲバント「グ、マイエル」カ

ミンスキノ「パール」諸氏ハ法人ニハ住所アルモ國籍ナシ世人往往法人ノ國籍ナル文字ヲ弄スルモ不當ナリト曰ヘリ

外國法人ノ享有スヘキ權利ノ範圍ハ內國ニ特別ノ規定ナキトキハ法人ノ本國法ニ依リテ定マル例多シト雖モ營業ノ手續ニ至リテハ內國法ニ依ルカ如シ外國法人ノ權利能力ハ近來ニ至リ始メテ認メラレタルコトハ既ニ説明セシ所ナレトモ其當事者能力殊ニ原告トシテ訴ヲ提起スル能力ヲ認メタルハ頗ル久レキカ如シ佛國ニ於テハ千八百五十七年ノ法律以前ニ於テ外國會社ノ當事者能力ヲ認メタリ英國ニ於テモ久シク外國會社ノ當事者能力ヲ認メタルハ同國ト特ニ締結シタル條約ヲ以テ於テハ千八百八十三年大審院判決ニ依レハ同國ト特ニ締結シタル條約ヲ以テ此事ヲ認メタル場合ニ非サレハ外國會社ノ當事者能力ヲ認メス此ノ如ク外國ニ於テ夙ニ外國法人殊ニ外國會社ノ當事者能力ヲ認メタルハ其權利能力ヲ認ムルニ比シ危險少シトノ思想ヨリ出タルモノナリ蓋シ內國ニ於テ權利能力ヲ認ムルトキハ經濟上ノ程度異ナル結果トシテ往往內國ノ經濟社會ニ非常ナル弊害ヲ醸スノ虞アリトノ思想ニ出タルモノナリ

第三款 權利能力ノ消滅

權利能力ノ消滅原因ハ舊時ニ於テハ其種類極メタ多シ例ヘハ自由ノ喪失、準死、失蹤、死亡等ナリシカ今日ニ於テハ前二種ノ原因ハ一般ニ之ヲ廢スルニ至レリ而シテ自由ノ喪失、殊ニ奴隸ハ今日僅少ノ國ニ於テ之ヲ存スト雖モ善良ノ風俗ニ反スルノ故ヲ以テ外國ニ於テ一般ニ之ヲ認メス而シテ死亡ハ何レノ國ニ於テモ權利能力喪失ノ原因ト認ムルカ故ニ涉外の問題ヲ惹起スニ由ナシ但シ數人同時ニ死亡シタル場合ニ於テ死亡順序ノ推定ニ付キ僅ニ涉外の問題ヲ惹起スノミ

權利能力消滅ノ原因中最モ涉外の問題ヲ惹起スハ失蹤ナリ蓋シ失蹤ノ制度ハ今日之ヲ三種ニ分ツコトヲ得ヘシ一ハ英、米ノ如ク全ク此制度ヲ設ケサルモノニシテ一ハ我國及ヒ獨逸法系諸國ノ如ク失蹤ニ因リ死亡ノ推定ヲ爲スモノ一ハ佛蘭西法系ノ如ク死亡ノ推定ヲ爲ササルモ相續開始ノ原因ト認ムルモノ即チ是ナリ而シテ等シク失蹤ノ制度ヲ設ケタル國ニ於テモ一定ノ年齡ヲ要件トス

ルモノアリ例ヘハ獨逸ノ如キハ一般ノ失蹤ニ付テハ三十歳以上ノ者ニ非サレハ失蹤ノ宣告ヲ受ケルコトナシ然ルニ我國ノ如キハ此ノ如ク年齡ヲ以テ失蹤ノ要件ト認メス而シテ失蹤ノ宣告ニ依リ死亡ノ推定ヲ爲ス國ト失蹤ノ宣告後更ニ一定ノ期間滿了後死亡ノ推定ヲ爲ス國アリ後者ハ瑞西國ニ於テ其例ヲ見ル所ナリ其他死亡推定ノ時期ニ付テモ各國ノ規定同シカラス或ハ獨逸法系ノ如ク一般ノ失蹤ノ場合ニハ失蹤ノ宣告中ニ定メタル時期ニ死亡セリト推定スルカ又ハ此時期ヲ定ムル能ハサル場合ニ於テハ法律上ノ推定ニ因リテ死亡ノ時期ヲ定ムル例アリ或ハ法律ヲ以テ死亡ノ時期ヲ確定スル例アリ例ヘハ我國ノ如キ即チ是ナリ又失蹤ノ手續ニ付テモ各國ノ規定同一ナラス是レ涉外の問題ヲ惹起ス所以ニシテ各國ノ實例多クハ本國法主義ヲ認メ學說モ亦之ヲ認ムルモノ多シ我法例第六條ニ於テモ失蹤ニ關スル涉外の問題ノ一部ヲ決定セリ同條ニ曰ク「外國人ノ生死カ分明ナラサル場合ニ於テハ裁判所ハ日本ニ在ル財產及ヒ日本ノ法律ニ依ルヘキ法律關係ニ付テノミ日本ノ法律ニ依リテ失蹤ノ宣告ヲ爲スコトヲ得」而シテ外國ニ於テ失蹤ノ宣告ヲ受ケタル者アルトキ我

國ニ於テ其宣告ヲ認ムヘキ否ヤノ問題ハ本條ニ依リ決定スルコトヲ得サルモ
ノトス抑モ外國人ニ對シ失踪ノ宣告ヲ爲スコトヲ得ルヤ否ヤハ一問題ナレトモ
前ニ示セタル如ク多數ノ實例並ニ學說ハ外國人ニ對シ失踪ノ宣告ヲ爲スヘカ
サルコトヲ認ム而シテ我法例第六條ニ於テハ日本ニ存在スル財産又ハ日本ノ
法律ニ依ルヘキ法律關係ニ關セサル場合ニ於テハ外國人ニ對シ失踪ノ宣告ヲ
爲スコトヲ得サル旨ヲ裏面ヨリ解釋スルコトヲ得ヘシ然ラハ日本ニ存在スル
財産トハ如何ナル意義ヲ有スルヤ蓋シ不動產ノ所在地ハ容易ニ之ヲ確定スル
コトヲ得レトモ動產ハ常ニ其所在地ヲ轉スルカ故ニ如何ナル時ヲ標準トシテ
我國ニ存在スルヤ否ヤヲ決定スヘキヤ例ヘハ失踪ノ宣告ヲ爲ス時ニ動產ノ日
本ニ存在セシモ請求ノ當時ニ於テハ其動產ノ所在地カ外國ナリシ場合ノ如キ
尙ホ我國ニ在ル財産ト認ムヘキヤ否ヤ蓋シ失踪ノ問題カ財産ニ最モ關係アル
時期ハ請求ノ時ニシテ即チ請求ヲ爲スノ必要アルヤ否ヤハ其當時日本ニ財産
ノ存在スルト否トニ依リテ定マルモノニシテ請求後ニ財産ノ我國ニ來ルヘキ
ヤ否ヤハ未知ノ問題ナリトス故ニ財産殊ニ動產ノ所在地ヲ定ムル時期ハ請求

ノ當時ナリト謂ハサルヘカラス或ハ法例第十條ニ依リ權利得喪ノ原因タル事
實ノ完成シタル時ヲ以テ所在地ヲ定ムヘキカ如キモ第十條ハ權利ノ得喪ニ關
スルモノニシテ第六條ハ權利ノ得喪ト何等ノ關係ナキモノトス
又法例第六條ニハ日本ニ在ル財産トアルカ故ニ債權ヲモ包含スヘシ然ラハ債
權ノ所在地ハ債務者ノ住所ナリヤ又ハ法律行為ヲ爲シタル地ナリヤ將タ又
債權者ノ住所ナリヤ蓋シ債務者ノ住所カ我國ニ在ル場合ニ於テハ債權執行
ノ點ヨリ觀ルモ將タ第三者ノ利益ヲ保護スル點ヨリ觀ルモ日本ヲ以テ債權ノ
所在地ト謂ハサルヘカラス故ニ右以外ノ場合ニ於テハ日本ノ裁判所ニ於テハ
外國人ノ失踪ヲ宣告スル必要ナシ之ヲ要スルニ日本ニ在ル債權トハ債務者カ
失踪宣告ノ請求ヲ爲ス當時日本ニ住所ヲ有スル場合ナリト解スルヲ穩當ナリ
トス

日本ノ裁判所カ失踪ノ宣告ヲ爲ス第二ノ場合ハ日本ノ法律ニ依ルヘキ法律關
係ニ關スル場合トス例ヘハ生死ノ分明ナラサル外國人カ我國ノ生命保險會社
ト契約ヲ爲シタル場合ノ如キ又ハ外國人ノ終身ヲ期セテ負擔スヘキ義務ヲ我

國ニ於テ約シタル場合ノ如キハ我國ノ裁判所ハ利害關係人ノ請求ニ依リ失踪ノ宣告ヲ爲スコトヲ得ルモノトス。外國人ハ其國ノ法律ニ依リ失踪ノ宣告ヲ爲シタルトキハ其財産ノ所有者ハ何人ナリヤ蓋シ我國ノ規定ニ依レハ失踪ノ宣告ハ死亡ヲ推定スルカ故ニ日本ノ法律ヨリ觀レハ右外國人カ所有者ナラサルコト明白ナリ然ラハ死亡ニ因リ相續開始スヘキヤ否ヤ法例第二十五條ニ依レハ相續ハ被相續人ノ本國法ニ依ル下アルカ故ニ相續問題ハ總テ被相續人タル外國人ノ本國法ニ依リテ定メサルヘカラス同條ハ單ニ「相續ハ」ト規定スレトモ相續開始ノ原因ヲモ包含セシムルカ爲メニ此ノ如ク廣汎的ニ規定シタルモノトス然ラハ今我國ニ於テ失踪ノ宣告ヲ受ケタル外國人カ英米人ナルトキハ如何予輩ノ知ル所ニ依レハ（獨逸民法草案理由書ニ依ル）英米ニ於テハ失踪ノ制度ナク隨テ之ヲ以テ相續開始ノ原因ト認メサルカ故ニ英米ノ法律ヨリ觀レハ我國ニ存在スル財産ノ所有者ハ依然トシテ失踪外國人ナリ然ラハ右ノ財産ハ民法第千五十九條ニ依リ國庫ニ歸屬スヘキヤト云フニ

同條ハ相續開始ヲ前提トシタル規定ニシテ本問ハ相續不開ノ場合ナルカ故ニ此ノ如ク結論スルコト能ハス隨テ民法第二百三十九條ヲ適用スヘキノミ或ハ法例第六條ハ第二十五條ノ例外トシテ失踪ノ宣告ヲ受ケタル外國人ノ財産ニ付キ日本法律ニ依リ相續問題ヲ決定スヘキカ如シト雖モ相續問題ト失踪問題トハ全ク別物ナルカ故ニ第六條ニ於テ特別ノ規定ナキ以上ハ此ノ如ク解釋スルコト能ハス

歐洲大陸ニ於テハ外國人ニ對シテ失踪ノ宣告ヲ爲ササルヲ例トス。ハハイム曰ク人格ノ消滅ハ其本國法ニ依リテ定マル即チ其死者ノ推定並ニ失踪ハ本國法ニ依ルヘキノトス又本國ノ裁判所ハ死亡者又ハ失踪者ノ財産ヲ管理ス若シ國家カ其領域内ニ存在スル財産ヲ絶對的ニ自國ノ法律ニ服従セシムルトキハ所在地ヲ異ニスルニ從ヒテ其財産ノ運命ヲ異ニスルニ至ルヘシ即チ一人ニシテ本國ニ於テハ死亡者ト看做サレ他國ニ於テハ生存者ト認メラルル奇怪ナル結果ヲ生スヘシ又「ブロシエー」ノ如キハ失踪者ノ最後ノ住所地ニ於ケル裁判所ノミ失踪ノ宣告ヲ管轄スト曰ヒ獨逸ノ判決例千八百九十年ハ失踪者ヲ生存者

ト看做スヘキヤ否ヤヲ其最後ノ既知ノ住所ニ於ケル法律ニ依リテ定ムルモノ
ニシテ我法例ノ如ク財産所在地ノ裁判所ヲ以テ失踪宣告ノ管轄ト爲ス說極メ
テ妙シ然ルニ獨逸民法施行法第九條ハ我法例ト同一ノ規定ヲ掲ゲタリ其全文
ヲ示セハ左ノ如シ

第九條 失踪者カ失踪開始ノ時ニ獨逸人ナリシトキハ獨逸法律ニ依リ内國
ニ於テ死亡ノ宣告ヲ爲スコトヲ得

失踪者カ失踪開始ノ時ニ外國ニ屬シタルトキハ獨逸法律ニ依リテ定マル法
律關係ニ對スル效力ヲ以テ並ニ内國ニ存在スル財産ニ對スル效力ヲ以テ失
踪者ニ對シ獨逸法律ニ依リ内國ニ於テ死亡ノ宣告ヲ爲スコトヲ得民法第二
千三百六十九條第二項ノ規定ヲ準用ス

參照 第二千三百六十九條 獨逸官廳カ權利ノ登記ニ要スル帳簿ヲ或物
ノ爲メニ備附シタルトキハ其物ハ内地ニ存スルモノト看做ス
失踪シタル外國ノ夫カ内國ニ於テ其最後ノ住所ヲ有シ而シテ内國ニ留在シ
タル若クハ内國ニ歸リタル妻カ獨逸人ナルトキ又ハ失踪者ト其婚姻ヲ爲ス

マテ獨逸人タリシ時ハ妻ノ申立ニ因リ失踪者ニ對シ第二項ニ定メタル制限
ナクシテ獨逸法律ニ因リ内國ニ於テ死亡ノ宣告ヲ爲スコトヲ得

本條第一項及ヒ第二項ハ第二讀會ニ於ケル民法第二千二百三十六條ヲ全然採
用シタルモノニシテ「グリーブハルト」ノ草案ニモ將タ其修正案ニモ之ナキ所ナリ
「グリーブハルト」案ノ條文左ノ如シ

第八條 死亡ノ宣告ニ關スル内國法ノ規定ハ獨逸人ニノミ適用セラル

内國ノ裁判所ハ右ノ手續ヲ專ニ管轄ス

修正案ノ條文左ノ如シ

第八條 第六條乃至第二十五條ノ規定ハ總テノ獨逸人ニ適用セラレ且ツ獨
逸人ニノミ適用セラル

内國ノ裁判所ハ右ノ手續ヲ專ニ管轄ス

「グリーブハルト」案及ヒ修正案ハ失踪ノ宣告ニ付キ本國法主義ヲ一貫セシハ想フ
ニ人格ノ消滅ニ付キ異別ノ見解ヲ防カンカ爲メニ外ナラサルヘシ
「モンテビタ」條約第十條ハ財産所在地法主義ヲ採リタレドモ其所在地タルヤ

國ノ内外ヲ問ハサルカ故ニ日本及ヒ獨逸ノ例ト趣ヲ異ニス其條文左ノ如シ
失踪宣告ノ法律上ノ效力ハ失踪者ノ財産ニ付テハ此法律關係ヲ管轄スル法
律ノ管轄ヲ將來ニ於テモ受クルモノトス

外國ニ於テ失踪ノ宣告ヲ爲シタル場合ニ我國ニ於テ之ヲ認ムヘキヤ否ヤ蓋レ
權利能力ノ發生問題ヲ法律關係ノ準據法ニ依リテ決定スルコト果シテ我法例
ノ精神ナリトセハ其消滅問題モ亦同一ノ準據法ニ依リテ決セサルヘカラス

第二節 行爲能力

行爲能力ニ關スル國際私法上ノ學說ハ少カラサレトモ就中最モ勢力アルモノ
ハ住所法説及ヒ本國法説ナリトス實例ニ於テモ亦此二主義カ最モ廣ク行ハル
ル所ナリ唯伊太利學者カ本國法説ヲ唱ヘシ以來實例モ亦漸ク此説ニ傾カント
ヒリ我法例第三條ノ如キモ本國法主義ヲ採用セリ同條ニ曰ク人ノ能力ハ其本
國法ニ依リテ之ヲ定ム外國人カ日本ニ於テ法律行爲ヲ爲シタル場合ニ於テ其
外國人カ本國法ニ依レハ無能力者タルヘキトキト雖モ日本ノ法律ニ依レハ能

力者タルトキハ前項ノ規定ニ拘ハラス之ヲ能力者ト看做ス前項ノ規定ハ親族法
又ハ相続法ノ規定ニ依ルヘキ法律行爲及ヒ外國ニ在ル不動産ニ關スル法律行
爲ニ付テハ之ヲ適用セスト舊法例第三條ニ曰ク人ノ身分及ヒ能力ハ其本國法
ニ從フ親族ノ關係及ヒ其關係ヨリ生スル權利義務ニ付テハ亦同シト今日能力
ニ關スル規定殊ニ成年ニ關スル規定ハ各國ノ間ニ非常ノ差異アリ少キハ十五
歳ヲ以テ成年ト定メ多キハ二十五歳ヲ以テ成年ト定メタリ今參考ノ爲メニ各
國ニ於ケル成年ヲ示スヘシ

滿十五歳 波斯

滿十六歳 土耳其

滿二十歳 日本民法第三條瑞西千八百八十一年六月二十二日聯邦法第一條

第二項

滿二十一歳 獨逸民法第二條佛蘭西白耳義ルクセンブルヒ「モナコ」民法第
四八八條希臘千八百三十六年十月十五日法律英吉利及ヒ其殖民地伊太利
民法第二四〇條葡萄牙民法第九七條露西亞普通法典第一六〇條波蘭民法

第三四五條「バルチク」法典第二六九條瑞典千七百三十六年一月二十三日
法律第一九條北米合衆國「ブラジル」民法第八條「コロンビヤ」民法第八條「ハイチ」民
法第二二條「エカードル」民法第二一條「ガタマラ」民法第二八條「ハイチ」民
法第三九八條墨西哥民法第六九四條秘魯民法第一二條「ウルガイ」民法第
二五七條「ヴェネチア」民法第二七四條
滿二十二歲 「アルジャンチン」民法第一二六條
滿二十三歲 和蘭民法第一二六條
滿二十四歲 奧太利民法第二一條匈牙利千八百七十七年法律第一條「扶諾
威」

滿二十五歲 西班牙「ボリヒヤ」民法第一九二條智利民法第二六條「サンサル
ヴァートル」民法二七〇條

左ニ能力ニ關スル學說ヲ紹介スヘシ
第一 住所主義

此主義ヲ唱フル者ハ曰ク住所ハ人カ生計ヲ營ム所ノ中樞タリ而シテ人生百般

ノ私法的法律關係ハ皆生計ノ爲メニ發生セサルハナシ他ノ語ヲ以テ之ヲ言ヘ
ハ私法的法律關係ハ生計地タル住所ヲ中心トシテ廻ルモノナリ即チ人ノ能力
問題ヲ決定スル準據法モ住所法以外ニ求ムヘカラサルナリ本國法ヲ以テ能力
問題ヲ決定スル準據法ト爲サントスル說ノ如キハ全ク此道理ヲ解セサルモノ
ナリ且ツ一國內ニ數多ノ法律カ併ヒ行ハルル場合ニ於テ何レノ法律モ皆本國
法ナルカ故ニ本國法說ヲ唱フル者ハ區區ノ法律中果シテ何レヲ適用セント欲
スルヤ(是レ本國法主義ニ對スル有力ナル駁撃ニシテ假ニ之ヲ第一駁撃トス)又
人ノ本國ヲ知ルハ頗ル困難ナリトス殊ニ近世各國カ移住ノ自由ヲ認メシ以來
外國ニ住所ヲ有スル者尠カラス此時ニ方リ米國ニ住スル者ハ唯リ米國人ノミ
ナラス英國ニ住スル者モ亦英國人ニ限ラサルナリ左レハ吾人カ外國人ト取引
スルニ方リ「一其本國ヲ問キ其國法ヲ調査スル如キハ到底爲シ得ヘキ事ニ非
ス又己ノ本國ヲ全ク知ラサル者尠カラス此等ノ場合ニ本國法主義ヲ實行セン
ト欲スルモ得ヘカラサルナリ(假ニ第二駁撃トス假ニ一步ヲ譲リ國籍ハ能力問
題ト密著ノ關係アリトスルモ此理由ハ歸化ノ場合ニハ頗ル薄弱ナリ何トナム

ハ歸化國ハ血統上ノ本國ニ非ス又生地ニモ非スシテ人爲ノ本國ナレハナリ假
ニ第三取摯トスト「アエリークス」ノ如キハ住所法モ本國法モ畢竟同一ニシテ二
者ヲ區別スル必要ナシト論シタレトモ全ク誤謬ニ屬シ本國以外ニ住所ヲ有ス
ルハ今日吾人ノ屢々實見スル所ナリ
今日住所法主義ヲ採用スル例ハ露領リウエスト、クールラント民法アルジャン
テン民法モンテビチオ條約英米判決例等是ナリ而シテ學說ニ至リテハ從來獨
逸ニ於テ一般ニ唱ヘラレタル所ナレトモ今日ニ於テハ本國法主義ヲ唱フル者
多キヲ加フルニ至レリ瑞西ニ於テハ今日尙ホ住所法主義ヲ唱フル者多シ英米
ノ學者ハ概テ皆住所法主義ヲ唱ヘリ佛蘭西ニ於テハ「ドマンシャ」ヲ除ク外今
日ニ於テハ住所法主義ヲ唱フル者ナシ
住所法主義ヲ唱フル學者中ニモ內國ノ取引ヲ保護セントノ思想ヨリ折衷說ヲ
唱フル者往往ニシテ之アリ此說ニ依レハ內國ノ法律上能力ヲ有スル者ハ縱令
住所法ニ依リ無能力者ナルトキト雖モ猶ホ能力者ト看做スヘイト謂フモノニ
シテ「ブイー」氏ノ如キハ此說ノ代表者トシテ一般ニ看做サレタルモノナリ

又法典トシテハ普通西普通法典ノ採用スル所ナリ 第二 本國法主義

本國法主義ヲ唱フル者ハ曰ク能力ニ關スル規定殊ニ成年ニ關スル規定ハ氣候
風土社會ノ狀態等ヲ標準トシテ設ケタルモノニシテ氣候溫暖ナル國ノ人民ハ
寒冷ナル國ノ人民ニ比シ成熟時期ノ迅速ナルコトハ洵ニ明白ナル事實ナルカ
故ニ夙ニ之ヲ成年者ト看做スモ妨ナシ之ニ反シテ氣候寒冷ナル國ノ人民ハ成
熟ノ時期遅キカ故ニ晩年マテ之ヲ未成年者トシテ保護スル必要アルヘシ而シ
テ此必要ハ到ル處ニ於テ之ヲ認メサルヘカラス然ラサレハ成年者ハ一步國境
ノ外ニ出テクルカ爲メ忽チ未成年者ト爲リ又未成年者ハ忽チ成年者ト爲ル奇
怪ナル結果ヲ生スヘシ又各國ニ於ケル社會ノ狀態モ成年ノ規定ニ大關係アル
モノニシテ就中文化ノ程度ハ成年ノ規定ニ著シキ影響ヲ及ボスヘシ是レ本國
ニ行ハルル法律ヲ以テ行爲能力ヲ定ムル標準ト爲ス所以ナリト而シテ此主義
ヲ唱フル者ハ住所法主義ヲ唱フル者ノ第一取摯ニ答ヘテ曰ク一國內ニ數多ノ
法律カ併ヒ行ハルル場合ニ於テハ住所ノ法律ヲ適用スヘシ蓋シ住所モ亦本國

ノ一部分ナレハナリ而シテ第二版ニ答ヘテ曰ク國際無籍人ノ今日存スルコトハ疑ナキ事實ナリト雖モ無住所者モ亦之アルカ故ニ此點ニ於テハ本國法主義モ將タ住所法主義モ同様ノ缺點ヲ有ス唯國際無籍人ハ一般ニ非認セラルルノミナラス各國ノ實例モ亦之ヲ豫防スル方針ヲ探ルカ故ニ此點ヨリ觀ルトキハ本國法主義ヲ優レリトス又國籍ノ衝突ハ之アリト雖モ複住所モ亦之アルニ非スヤ殊ニ獨逸民法ノ如キハ法律ヲ以テ之ヲ認メタリ然ルニ國籍ノ衝突ハ今日ノ實例上之ヲ豫防スルノ方針漸ク發達シタルカ故ニ此點ヨリ觀ルモ本國法主義ヲ優レリトスト

第三 行為地法主義

行為地法主義ヲ唱フル者ハ曰ク吾人カ取引ヲ爲スニ際リ一他人ノ住所又ハ國籍ヲ知ルコトハ容易ノ業ニ非ス而シテ法律行為ヲ爲ス地ノ法律ハ當事者之ヲ知レリト推定スルコトヲ得ルカ故ニ法律行為ヲ爲タル地ノ法律ニ依リテ能力ノ問題ヲ決定スルトキハ取引上最モ安全ナルヘシト此說ハ「ストラー」ウニストレーキ等ノ唱フル所ナレトモ今日ニ於テハ勢力ナシ唯シヨルシヤ民法

ニ於テ之ヲ採用セシト北米合衆國ノ一部分トニ於テ之ヲ採用セシ例アルノミ以下右三主義ヲ批評スヘ

第一 住所法主義住所法主義ニハ左ノ弱點アリ

(一) 無住所ノ場合ニハ此主義ヲ適用スル能ハサルコト

(二) 數多ノ住所即チ複住所ノ場合ニ之ヲ適用スル能ハス學者往往複住所ハ各國ノ民法ニ於テ之ヲ認メスト曰フト雖モ是レ單ニ解釋論ニ過キスシテ複住所ヲ否定セタル規定ハ各國民法ニ於テ發見セサル所ナリトス

(三) 此主義ヲ採ルトキハ當事者ハ隨意ニ能力ヲ處分スル結果ヲ生スヘシ蓋シ住所ハ單獨行為ニ依リテ之ヲ變更スルコトヲ得ルカ故ニ今日甲地ニ住所ヲ有スル者明日乙地ニ住所ヲ移スコトヲ妨ケス然ルニ國籍ノ變更ニ至リテハ住所ノ變更ニ比シ其手續困難ニシテ國家ノ許可ヲ要スルヲ例トス隨テ能力問題ノ準據法トシテ住所法ヲ擇フコト能ハス

(四) 國家ハ外國人ノ住所ヲ廢止スルコトヲ得ヘシ即チ外國人ヲ國外ニ放逐スルコトヲ得ルハ現行國際法ノ認ムル所ニシテ外國人カ內國ニ於テ住所ヲ有ス

ルハ内國ニ於テ之ヲ認許スル範圍ナリトス故ニ能力問題ヲ住所法ニ依リテ決スルトキハ危險尠カラス

第二 本國法主義 本國法主義ハ予輩ノ贊成スル所ナリ然レトモ此主義ノ學者ハ一國內ニ數箇ノ法律カ併ヒ行ハルル場合ニ於テ單ニ住所ノ法律ヲ適用スヘレト曰フモ一國ノ臣民ハ必スシモ其本國ニ住所ヲ有スルモノニ非ス此場合ニ何レノ法律ヲ適用スヘキヤニ付テハ本國法主義ヲ唱フル學者ノ説明セサル所ナリ予ハ此場合ニ取得ノ原因タル事實ノ發生地ニ依リテ適用スヘキ法律ヲ定メント欲ス又本國法主義ノ學者ハ歸化ニ關スル駁難ニ付キ何等ノ答辯ヲ與ヘサレトモ予ヲ以テ之ヲ觀ルニ歸化ハ内國ニ歸化シタル實アルカ爲メニ外國人ニ許スモノナルカ故ニ歸化人ハ内國人ト異ナル所アルヲ見ス隨テ歸化人ニ歸化國ノ法律ヲ適用スルハ不當ニ非サルコトヲ信ス

第三 行為地法主義 此主義ノ弱點ヲ舉クレハ法律行為ヲ爲ス地ハ多クハ偶然ノ地ナルカ故ニ行為能力ノ標準法ハ偶然ノ標準タル點ニ在リ蓋シ行為能力ハ永久的ノ標準ニ依リテ定ムヘキコトハ其性質ヨリ生スル結果ナルニ拘ラス

旅行中ニ法律行為ヲ爲シ殊ニ航海中又ハ汽車中ニ於テ法律行為ヲ爲シタル場合ニ船舶國籍ノ屬スル國又ハ通過國ノ法律ニ依リ行為能力ヲ定ムルカ故ニ國際私法上根據アルモノト謂フヘカラス

本國法主義ヲ唱フル學者中ニモ或程度マテ行為地法主義ヲ採用セル者アリ就中佛國ノ學者中近來此說ヲ唱フル者漸ク其數ヲ増加スルニ至レリ即チ内國ノ法律ニ依リテ能力アル者ハ縱令本國法ニ依リ無能力ナルモ猶ホ之ヲ能力者ト看做スヘシト曰フ者是ナリ蓋シ内國ニ於テ取引スル者ハ外國人カ本國法ニ依リ無能力ナル事實ヲ知ルコト頗ル困難ナルカ故ニ多數者ノ利益ヲ保護スル爲メニ純然タル本國法主義ニ制限ヲ加ヘタルモノナリ

舊法例ニ於テハ身分及ヒ能力ヲ同一ノ準據法ニ依ラシメタレトモ新法例第三條ニ於テハ身分ナル文字ヲ削除セリ蓋シ身分トハ人カ社會上若クハ親族間ニ有スル地位ヲ指稱シタルモノニシテ社會上ニ於テ有スル地位例ヘハ貴族又ハ僧侶タル身分ハ往時國際私法上ノ問題ヲ惹起シタルコト屢之アリシト雖モ今日ニ於テハ僅少ノ場合ニ國際私法上ノ問題ト爲ルニ過キサルコトハ已ニ説明セ

シ所ナリ而シテ親族間ニ於ケル身分ハ我法例ニ於テハ特別ノ條項ヲ設ケテ之ヲ規定シタルカ故ニ第三條ニ於テ身分ナル文字ヲ削除セシモノナラン
第三條ハ妻ノ能力問題ヲモ管轄スルヤ予ヲ以テ之ヲ觀ルニ法例第十四條ニ「婚姻ノ效力ハ夫ノ本國法ニ依ル」トアルカ故ニ同條ノ規定ニ屬スヘキモノト信ス蓋シ妻ノ能力問題ハ所謂特別ノ能力問題ナルノミナラス妻ノ無能力ハ婚姻ノ結果ナレハナリ又立法上ヨリ之ヲ言フモ夫婦カ國籍ヲ異ニシタル場合ニ妻ノ本國法ニ依リテ其能力ヲ定ムルニ於テハ婚姻ノ目的ヲ阻礙スルモノト謂ハサルヘカラス果シテ然ラハ妻ノ能力問題ハ第三條ニ依リテ決スルコト能ハサルモノト信ス而シテ法例第三條ハ年齡ニ基因スル能力問題ノミナラス我法例中特別ノ規定ナキ以上ハ總テ第三條ニ依リテ管轄セラルヘキモノナリトス
外國人カ日本ニ於テ法律行爲ヲ爲シタル場合ニ法例第三條ハ本國法適用ノ例外ヲ認メタリ即チ其外國人カ本國法ニ依シハ無能力者タルヘキトキト雖モ日本ノ法律ニ依リ能力者タルヘキトキハ之ヲ能力者ト看做スコト是ナリ是レ所謂本國法主義ニ對スル折衷主義ニシテ內國ノ取引ヲ保護セントスル目的ニ外

ナラス蓋シ我國ニ於ケル多數ノ者ハ外國人ト取引ヲ爲スニ方リ其本國法ヲ知ルコト頗ル困難ナレハナリ然ルニ此規定ハ立法上ヨリ觀ルトキハ必スシモ完全ナリト謂フヘカラス何トナレハ外國ニ於テ法律行爲ヲ爲シタル場合ニハ其外國人ノ能力ハ本國法ニ依リ定マルモノナルカ故ニ取引地タル外國ノ多數者ノ利益ヲ保護セサル結果ヲ生スレハナリ即チ法律行爲ヲ爲シタル地カ外國ナルトキハ少數者ノ爲メニ多數者ノ利益ヲ犧牲ニ供スルモ若シ我國ニ於テ法律行爲ヲ爲シタルトキハ多數者ノ利益ヲ保護スル必要アリト謂フモノニシテ論理ヲ一貫スルモノニ非ス歐洲大陸ニ於テ折衷主義ヲ唱フル者ハ絕對ニ行爲地法主義ヲ折衷シ即チ行爲地法ノ內國法ナルト外國法ナルトニ依リテ其結果ヲ異ニセサルモノトス其他第三條第二項ハ第四條ノ規定ト權衡ヲ失スル嫌アリ蓋シ第四條ニ依レハ禁治產宣告ノ效力ハ宣告ヲ爲シタル國ノ法律ニ依ル而シテ此宣告地ハ必スシモ外國人ノ本國タルコトヲ要セサルカ故ニ英國人カ獨逸ニ於テ禁治產ノ宣告ヲ受ケタルトキハ我國ニ於テハ獨逸法律ニ依リテ其效力ヲ定メサルヘカラス隨テ禁治產者ノ無能力ノ範圍ハ獨逸ノ法律ニ依リテ定マ

ルモノトス今此英國人カ我國ニ於テ法律行爲ヲ爲シタルトキハ縱令我法律上能力者タルヘキトキト雖モ之ヲ能力者ト看做スコト能ハス年齡ニ基因スル無能力ノ場合ニハ多數者ノ利益ヲ保護スル必要アレトモ禁治產ノ結果タル無能力ノ場合ニハ之ヲ保護スル必要ナシトハ予輩ノ解スル能ハサル所ナリ加之第三條第二項ハ外國法ヲ知ルノ困難ナル事實ヲ前提トスルモノナレトモ實際犯關ニ屬スルコトハ歐洲ニ於ケル實際ニ徴シテ明カナル所ナリ

外國ニ在ル不動産ニ關スル法律行爲ニ付テハ本國法ニ依リテ行爲能力ヲ定ムルコトハ我法例第三條末項ノ規定スル所ナリ之ヲ説明スル者ハ曰ク本國法ニ依リテ行爲能力ヲ定メタルトキハ法律行爲ヲ執行スルコト能ハス蓋シ法律行爲ノ執行ニ付テハ公力ヲ藉ルノ必要アレハナリト是レ不動産所在地法カ同時ニ當事者ノ本國法タル場合ヲ想像シタルモノナレトモ今日各國ノ制度ヲ見ルニ不動産ノ所有者ハ必スシモ不動産所在地ノ臣民ニ限ラサルカ故ニ米國人カ英國ニ在ル不動産ヲ我國ニ於テ賣渡ス場合アルヘシ此場合ニ我法例第三條ニ依レハ右不動産ヲ米國人カ處分スルコトヲ得ルヤ否ヤノ問題ハ米國ノ法律ニ

依リテ之ヲ定ムルモノナルカ故ニ若シ不動産所在地タル英國ノ法律ニ依リテ米國人カ無能力者ナル場合ニハ之ヲ執行スルコト能ハサルニ至ルヘシ故ニ予ヲ以テ之ヲ觀ルニ外國ニ在ル不動産ニ關スル法律行爲ニ付テハ不動産所在地法ニ依リテ行爲能力ヲ定ムルヲ正當ナリト信ス此說ハ予ノ創見ニアラスヤ

歐洲大陸ノ學者中之ヲ主唱スル者尠カラス英米ニ於テハ此學說ヲ實行セリ外國人カ本國法ヲ惡意ヲ以テ告ケサル場合ニ於テモ尙ホ第三條第二項ノ規定ヲ適用スルコトヲ得ルヤ此問題ニ付キ說ヲ爲ス者アリ曰ク惡意ノ證明ハ頗ル困難ナルカ故ニ縱令外國人カ惡意ヲ以テ本國法ヲ告ケサルモ尙ホ我法律ニ照シテ能力者タルトキハ之ヲ能力者ト看做スヘシト此說ハ我國ニ於テ贊成スル者尠カラス

以下行爲能力ノ制限ニ付キ一言スヘシ

第一 民事上ノ禁治產

本問題ハ之ヲニ分テテ説明スヘキ即チ甲外國人ニ對シテ民事上ノ禁治產ヲ宣告スルコトヲ得ルヤ否ヤ乙外國ニ於テ外國人ニ對シ宣告シタル禁治產ハ内

國ニ於テ之ヲ認めヘキヤ否ヤ是ナリ然レバ外國人ニ對シテ禁治產ノ宣告ヲ爲スコトヲ得ルモノトス之ニ反シテ英國ニ於テハ外國人ノ本國法如何ニ拘ラス英國法ニ依リ外國人ニ對シテ禁治產ヲ禁スルコトアリ獨逸ニ於テハ其民法施行法第八條ニ規定シテ曰ク「外國人カ內國ニ於テ住所ヲ有スルトキ若シ住所ヲ有セサル場合ニハ居所ヲ有スルトキハ其外國人ハ內國ニ於テ獨逸法律ニ依リ治產ヲ禁セラルコトヲ得」下我法例第四條モ亦外國人ニ對シテ民事上ノ禁治產ヲ宣告スルコトヲ得ル旨ヲ規定セリ同條ニ曰ク「禁治產ノ原因ハ禁治產者ノ本國法ニ依リ其宣告ノ效力ハ宣告ヲ爲シタル國ノ法律ニ依ル」日本ニ住所又ハ居所ヲ有スル外國人ニ付キ其本國法ニ依リ禁治產ノ原因アルトキハ裁判所ハ其者ニ對シテ禁治產ノ宣告ヲ爲スコトヲ得但日本ノ法律カ其原因ヲ認メサルトキハ此限ニ在ラストス

右第四條第二項ニ依レハ日本ノ裁判所ハ左ノ要件アルトキニ限り外國人ニ對

シテ禁治產ノ宣告ヲ爲スコトヲ得ルモノトス

(一) 外國人カ日本ニ於テ住所又ハ居所ヲ有スルコト 外國人ニ對シテ禁治產ノ

宣告ヲ爲スハ內國ノ公益上ヨリ打算シタルモノナルカ故ニ日本ニ住所又ハ居所ヲ有セサル外國人ノ如キハ我國ニ密著ノ關係ナク隨テ之ニ對シテ禁治產ノ宣告ヲ爲ス必要ナキモノトス

(二) 日本ノ法律及ヒ外國ノ法律カ共ニ認メタル禁治產ノ原因アルコト 外國人ノ本國法カ認メタル禁治產ノ原因アルモ我法律カ之ヲ認メサル場合ニ我裁判所ニ於テ禁治產ノ宣告ヲ爲スハ所謂國際公安ニ抵觸スルモノト謂フヘシ蓋シ法例第三十條ニ於テ制限條款ノ設ケアレトモ該條ハ一般ニ外國法適用ノ範圍ヲ定メタルニ過キスシテ公ノ秩序又ハ善良ノ風俗ニ反スルト否トハ之ヲ裁判官ノ解釋權ニ委任シタリ隨テ第四條ニ於テ特別ノ制限條款ヲ設ケサルトキハ裁判官ハ其解釋權ヲ以テ我法律ノ認メサル原因ニ依リ外國人ニ對シテ禁治產ノ宣告ヲ爲スコトヲ妨タル能ハス故ニ立法者ハ特別ノ制限條款ヲ設ケテ裁判官ノ解釋權ヲ羈束セリ或ハ第四條第二項但書ハ第三十條ト

重複スルモノニアラスト曰フ者アレトモ右ノ但書ニ拘ラス單ニ外國法ノミ
ニ依リテ外國人ニ對シ禁治產ノ宣告ヲ爲スモ我公安ヲ侵害セストノ說ヲ買
クニアラサレハ予輩未タ右ノ說ニ服スル能ハサルナリ予輩ハ日本法律ノ規
定ニ拘ラス外國法ヲ適用スルトキハ必ス我國ノ公安ヲ侵害スルコトヲ信ス
ル者ナリ

(乙) 外國ニ於テ外國人ニ對シテ宣告シタル禁治產ハ內國ニ於テ之ヲ認ムヘキ
ヤ否ヤ 既ニ示シタルカ如ク我法例第四條第一項ニ於テハ禁治產ノ原因ニ關
スル準據法ト宣告ノ效力ニ關スル準據法トヲ區別シ前者ハ禁治產者ノ本國法
タルコトヲ要セ後者ノ宣告地ノ法律タルコトヲ要セリ隨テ外國人カ其本國ニ
於テ禁治產ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ我國ニ於テ其宣告ヲ認ムルノミナラス第
三國ニ於テ外國人ニ對シ禁治產ノ宣告ヲ爲シタル場合ニモ我國ニ於テ其宣告
ヲ認ムルコトト爲レリ其結果タルヤ日本人カ外國ニ於テ禁治產ノ宣告ヲ受ケ
タル場合ニモ宣告ノ效力ハ外國法ニ依リ定マル隨テ我法律ノ認ムル範圍ヲ超
エテ日本人カ無能力者ト爲ル場合亦之アルヘシ

右ハ我法例ノ規定ナレトモ一般ノ學說ハ外國人ノ本國ニ於テ爲シタル禁治產
ノ宣告ヲ認ムレトモ第三國ニ於テ爲シタル禁治產ノ宣告ヲ否認セリ又或說ニ
依レハ一般ニ外國ノ禁治產ヲ認ムヘカラストセリ其理由トスル所ハ外國判決
カ正當ナルヤ否ヤハ不明ナルカ故ニ直チニ外國ノ判決ヲ認ムルハ公益ニ反ス
ト云フニ在リ英米ノ實例即チ是ナリ

第二 民事上ノ準禁治產

法例第五條ニ曰ク前條ノ規定ハ準禁治產ニ之ヲ準用ス二ト準禁治產ハ民事上ノ
禁治產ト頗ル相類スルカ故ニ我法例ハ同一ノ準據法ニ依ラシメタリ外國ノ學
說及ヒ實例モ亦多クハ同一ナリ隨テ我法例ニ依レハ準禁治產宣告ノ效力ハ宣
告ヲ爲シタル地ノ法律ニ依リテ定マルモノトス而シテ我國ニ於ケル外國人ニ
對シテ準禁治產ノ宣告ヲ爲ス場合ハ其本國法ト我國ノ法律トニ依リテ其原因
ヲ認ムルコトヲ要ス故ニ英國人ノ如ク其本國法カ浪費ニ因ル準禁治產ヲ認メ
サル人民ニ對シテハ我國ニ於テ準禁治產ノ宣告ヲ爲スコト能ハサルナリ

第三 刑事上ノ禁治產

刑事上ノ禁治産ニ付テハ二箇ノ問題ニ區別スルコトヲ要ス第一ハ外國人ニ對シ刑事上ノ禁治産ヲ宣告スルコトヲ得ルヤ否ヤノ問題ニシテ第二ハ外國ニ於テ爲セタル刑事上ノ禁治産ノ宣告ハ內國ニ於テ之ヲ認ムヘキヤ否ヤノ問題ナリ

第一ノ問題ニ付テハ刑事上ノ禁治産ヲ認ムル國ノ實例並ニ學說ハ何レモ之ヲ肯定シ外國人ニ對シ右ノ宣告ヲ爲スコトヲ得ルモノトセリ蓋シ刑法ハ外國人ヲモ管轄スルヲ以テナリ然レトモ此問題ハ元來刑法ニ屬スルモノナルカ故ニ茲ニ之ヲ詳論セス

第二ノ問題ニ付テハ歐洲ニ於ケル學說並ニ實例ハ何レモ之ヲ否定セリ蓋シ刑事上ノ禁治産タルヤ主刑ノ足ラサル所ヲ補フモノナルカ故ニ其效力區域モ亦主刑ト同一ナラサルヘカラス而シテ主刑カ國外ニ於テ其效力ヲ有セサルハ是レ亦多數ノ學說ノ認ムル所ニシテ夫ノ宇宙主義ヲ唱フル學說ノ如キハ主權ノ區域ヲ滅却スルモノナリトシテ今日一般ニ排斥スル所ナリトス故ニ外國ニ於テ宣告セラレタル刑事上ノ禁治産ハ一般ノ無能力ノ場合ト其趣ヲ異ニシ內國

ニ於テ之ヲ認ムヘキモノニアラスト爲ス所以ナリ我法例ニ於テ之ニ關シ規定ヲ設ケサルハ蓋シ當然ノ事理ニ屬スルモノナリト認メタルモノナランカ

第二章 債 權

第一節 法律行爲ニ因ル債權

法律行爲ニ因ル債權ノ準據法ニ付テハ左ノ學說アリ

第一 訴訟地法說

此說ニ依レハ法律行爲ニ因ル債權ノ準據法ハ訴訟地法ナリトス其理由ニ白ク裁判官ハ內國ノ法律ヲ適用スル職責アルモ外國ノ法律ヲ適用スル職責ナシ若シ然ラストセハ外國ノ法律ハ內國ニ於テ其效力ヲ有スル事實ヲ證明セサルヘカラス蓋シ主權ハ國境ヲ超エサル法理ヲ認ムル以上ハ外國法カ內國ニ於テ行ハレサルコトモ亦認メサルヘカラス又實際上ヨリ言フモ裁判官ハ外國ノ法律ヲ知ルコト頗ル困難ナルカ故ニ訴訟地以外ノ法律ヲ適用スヘシト爲スハ是レ裁判官ニ不能ノ事ヲ強フルモノナリ云云ト

第二 債權者ノ本國又ハ住所法ヲ適用スヘシトノ說

此說ハ獨逸ノ學者間ニ往往行ハルル所ニシテ其本國法說ヲ唱フル者ハ曰ク債權ニ關スル規定ハ債務者ノ利益ヲ保護スルヲ主眼トセタルハナレ隨テ債務者ノ本國ニ行ハルル法律ヲ適用スヘシト其住所法說ヲ唱フル者ハ債務者ノ住所ニ行ハルル法律ノミ唯リ債權問題ノ準據法タルヘシト曰ヘテ其理由トスル所ハ等シク債權ニ關スル規定ヲ以テ債務者ノ利益ヲ保護スル目的ニ出タルカ故ナリト云フニ在リ

第三 履行地法說

此說ハラビニール氏ノ始メテ唱道シタル所ナリ今同氏ノ論旨ヲ摘載スレハ下ノ如シ曰ク債權ノ成立スルハ之ヲ履行スルカ爲メニシテ債務ノ履行ハ債務成立ノ大目的ナリ故ニ債務ノ履行地ハ債務ノ問題ニ最モ密著ノ關係ヲ有スルモノニシテ當事者ハ契約ヲ爲スニ際シ必ズ履行地ノ法律ニ著目シタルナルヘシ隨テ其地ノ法律ヲ適用スルハ當事者ノ意思ニ從フ所以ナリ但シ當事者ニシテ特別ノ意思ヲ表示セタルトキハ債務ノ性質ヨリ計算スルモ固ヨリ之ニ從ハナシ

校外生規則摘要

- 一 講義録ハ各部毎月二回發行シ滿一今年ヲ以テ卒業トス
- 一 一个年ヲ以テ完了セサルトキハ號外ヲ發ス
- 一 講義録ハ之ヲ三部ニ分ツ其發行定日左ノ如シ
 - 第一部 毎月 五日 二十日
 - 第二部 毎月 十日 廿五日
 - 第三部 毎月 十五日 三十日
- 一 月謝金ハ全部壹圓、各一部四十錢トス但シ入學金ヲ要セズ
- 一 校外生ハ本校講議會、討論會ニ出席傍聽スルコト及ヒ本校ノ出版ニ係ル書籍雜誌ハ特別ノ廉價ヲ以テ購求スルコトヲ得
- 一 校外生全部卒業證書ヲ有スル者ハ試験ノ上校內生三年級ニ編入セラルコトヲ得
- 一 校外生ハ講義録中ノ疑義ニ付キ質問スルコトヲ得問題ハ一問毎ニ別紙ニ認メ且一問毎ニ返信用郵券ヲ封入スルコトヲ要ス
- 一 三ヶ月以上月謝不納ノ者ハ退學者ト看做ス
- 一 月謝、東京飯田町郵便支局拂和佛法律學校會計係宛トスヘシ

明治廿二年十二月九日 内務省許可

明治三十三年十一月六日印刷
明治三十三年十一月十日發行

東京市四谷區四谷仲町三丁目六番地

編輯者 小田幹治郎

東京市芝區西ノ久保明海町十一番地

印刷者 金子鐵五郎

東京市芝區西ノ久保明海町十一番地

印刷所 金子活版所

東京市總町區富士見町六丁目十六番地

發行所 司法省 和佛法律學校

(電話番町百七十四番)